



採用に関するお問い合わせ

総務省大臣官房秘書課

〒100-8926 東京都千代田区霞が関2-1-2
中央合同庁舎第2号館7階

Tel. (代表)03-5253-5111

(直通)03-5253-5073・5074・5075

http://www.soumu.go.jp/menu_syokai/saiyou/index.html



先輩からのメッセージ

平成30年度一般職採用案内

総務省

Ministry of Internal Affairs and Communications

CONTENTS

○先輩からのメッセージ(行政制度の管理運営)

- p03 ICTで行政を変える 北原 健太郎
- p04 施策を支える土台作り 辻元 亮
- p05 暮らしに役立つ統計調査 高橋 大
- p06 「当たり前」を提供するために 阿久津 文香
- p07 国民に信頼される質の高い行政の実現に向けて .. 楠原 修
- p08 総務省というチームが社会経済の発展を支えています .. 星野 健

○先輩からのメッセージ(地方自治行政)

- p09 暮らしを便利にする仕事 平野 聡司
- p10 選挙制度を通じて、社会に貢献！ 荒居 陽子
- p11 幅広い観点から、地域を支える 西林 幸泰
- p12 それぞれの力が集結する場所 秋葉 瑞希
- p13 防災から学ぶ 田島 大毅
- p14 地域の元気を引き出す力になる。 萩原 良智

○先輩からのメッセージ(放送・情報通信・郵政行政)

- p15 ラテンの国+総務省 今泉 理良香
- p16 ICTの活用で社会を便利に 赤坂 勇磨
- p17 放送のこれからを見据えて 林田 雄亮
- p18 利用者目線を忘れずに 岡本 かおり
- p19 通信行政の役割と面白さ 戸部 絢一郎
- p20 経験の幅は、将来の仕事の幅 加藤 陽介

p21~p24 平成30年度入省者に聞きました!



○先輩からのメッセージ(地方支分部局)

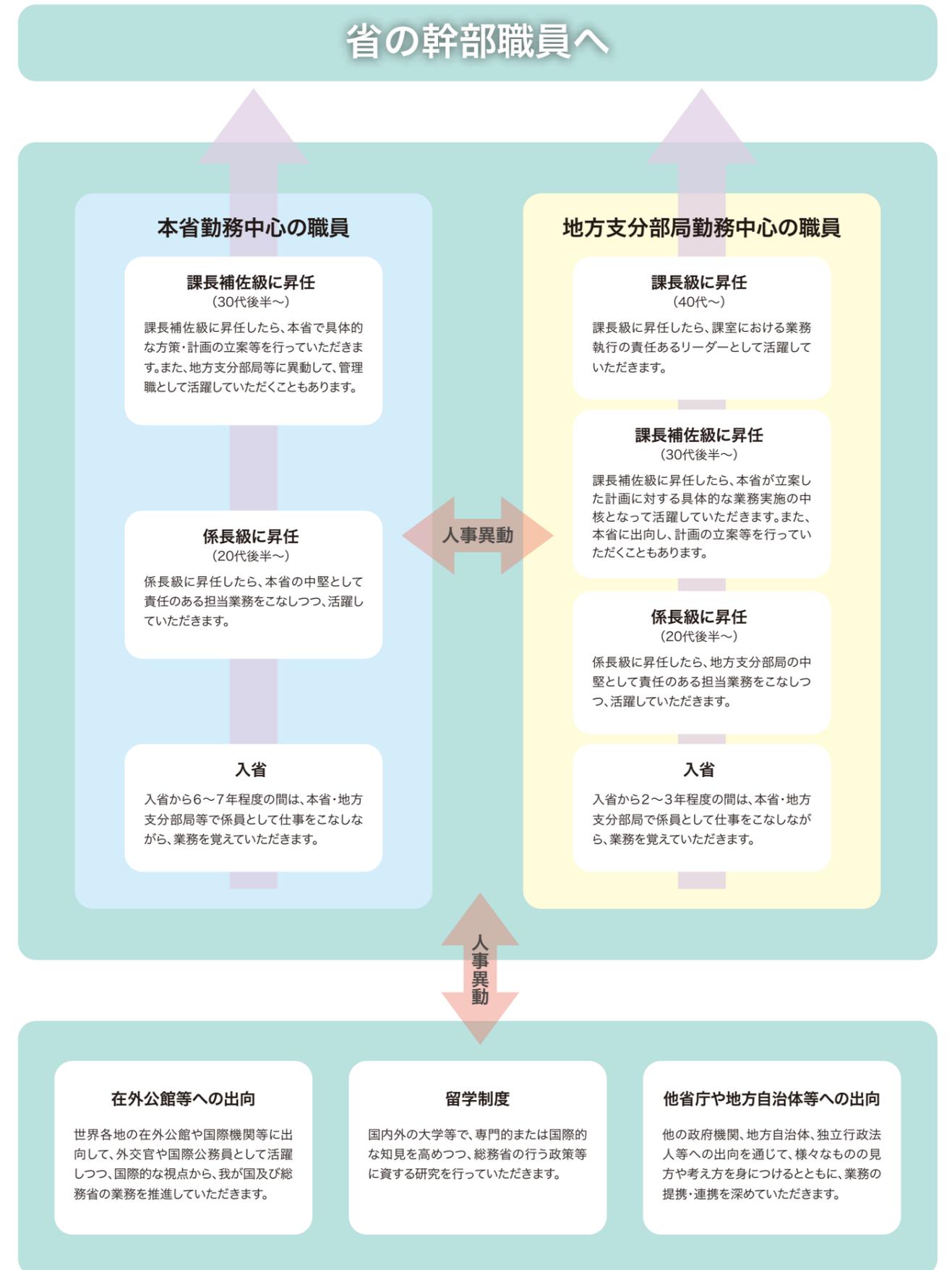
- p25 変化し続ける社会、より良い行政とは 竹内 秀興
- p26 多様な目線で行政を考える 牧野 智美
- p27 国と地方をつなぐ仕事 小杉 裕二
- p28 イマを支え、ミライにつなげる 三宮 裕人
- p29~p30 若手職員の1日 泉 和樹
森田 結衣
高鍋 直也

○先輩からのメッセージ(地方自治体・海外・出向・留学)

- p31 内閣人事局に出向して 二瓶 和子
- p32 この国のためにできること 石原 裕也
- p33 大切なのは「チームワーク」 春原 善幸
- p34 今、地方の現場で思うこと 江戸 将志
- p35 地方で得た学びと思いを胸に 喜久里 彩芳
- p36 アメリカから地方自治を見つめて 倉内 佳織
- p37 世界の裏側で、日本をさげふ 湯沢 華子
- p38 フランス・ポルドー政治学院にて 尾崎 敦子

- p39 ワーク・ライフ・バランス
- p40 Q&A
- p41~p42 総務省の組織
連絡先

総務省入省後のキャリアステップの一例



これはあくまで目安です。本人の勤務成績や希望等により変わります。



ICTで行政を変える

行政管理局行政情報システム企画課
(総括業務、業務・システム改革総括担当係長)

北原 健太郎 KITAHARA Kentaro

- 平成15年 4月 総務省採用
九州管区行政評価局
- 平成16年 4月 行政評価局評価監視官付
- 平成20年 4月 行政管理局行政情報システム企画課
- 平成22年 4月 行政管理局行政情報システム企画課
企画調整第二係長
- 平成24年 4月 大臣官房企画課個人番号企画室
個人番号企画調査第一係長
- 平成25年 5月 大臣官房企画課個人番号企画室
情報システム調査係長
- 平成28年 4月 大臣官房企画課個人番号企画室
システム総括係長
- 平成28年 7月 現職

■行政へのICTの活用推進

ICTはすでに生活のすみずみまで浸透し、みなさんもスマートフォンなど日常的に何らかのかたちで接していると思います。行政においても、ICTは業務上なくてはならないものとなっており、少子高齢化が進む中で、ICTをどう活用するかが、「すぐ使えて」、「簡単で」、「便利」な行政サービスを実現するために鍵を握ると考えています。

総務省は、政府におけるICT活用の推進と、政府共通ネットワークなど政府横断的に必要なシステムを整備し各府省にサービス提供を行っています。私は、主として政府におけるICT活用の推進のための企画・調整を担当しています。現在は、各府省で戦略的なICT活用を推進するための計画を立てるべく、その内容の検討や調整を行っています。単に政策の企画・立案をするだけでなく、その実現に向け、各府省からの問合せや様々な関係者との打合せなどを通じ、相手の立場も踏まえつつ、粘り強く自分たちの考え方を伝えることを心がけています。

■一府省とは違う立場で

一府省という立場に留まらない政府横断的な立場で仕事ができるのは、総務省ならではの強みです。国民生活に直結した特定の行政分野を担っていないものの、ICT活用という観点から、しがらみなく各府省と行政課題の解決に向けた議論を行い、よりよい国民生活の実現に取り組むことができます。また、以前担当したマイナンバーのシステム構築は、国民への影響も大きく、関係者も多岐にわたる短期間の難しいプロジェクトでした。そのような国民生活や行政運営の基盤となるビッグプロジェクトに関わるチャンスもあります。職場は、オフィス改革の一環で座席を固定しないフリーアドレスとなっていることもあり、風通しが良く、若手・管理職関係なくフラットに議論しながら業務に取り組んでいます。求められるのは、枠にとらわれない柔軟な発想と、何かをやりたい・実現したいという熱意です。ぜひ、一度興味を持って総務省をのぞいてみてください。

Private Life

週末は、平日あまり一緒に過ごせない子どもたちと過ごしています。ごはんを食べさせたり、公園に遊びに連れて行ったり、絵本を読み聞かせたり、お風呂に入れたり。一日中子どもとべったりです。夏場は、水遊びができる公園を制覇しました。たまに、自分の時間として趣味の山登りやボルダリングで心と体をリフレッシュしています。



施策を支える土台作り

政策統括官付統計企画管理官付
統計専門職

辻元 亮 TSUJIMOTO Ryo

- 平成17年 4月 総務省採用
統計センター総務部総務課評価運用係
- 平成18年 1月 統計センター総務部経営企画室評価係
- 平成19年 9月 統計局統計調査部調査企画課総括係
- 平成21年 11月 統計局総務課
- 平成24年 2月 内閣官房行政改革推進室
- 平成24年 5月 統計局総務課主査
- 平成24年 7月 統計局統計調査部経済基本構造統計課統計専門職
- 平成26年 4月 統計局統計調査部経済基本構造統計課
情報解析第一係長
- 平成27年 4月 京都府政策企画部企画統計課主任
- 平成28年 4月 京都府政策企画部企画統計課副主査
- 平成29年 4月 現職



Question & Answer

Q. あなたが実践する働き方改革とは？

A. 週一回は、テレワークで在宅勤務を行うようにしています。職場での勤務は、電話対応やミーティングでまとまった時間が取りづらく、集中して何かを考えたり、資料を作成したりすることが難しいのが実情です。在宅勤務の日に、集中して検討したい仕事に取り組むよう、スケジュールリングしています。

Q. 一緒に働くならどんな部下？

A. 明るく、何にでも前向きに取り組んでくれる人がよいと思います。また、学習意欲を持って新しい知識を身につけるべく、自己研鑽に取り組む人がいいですね。



Question & Answer

Q. 総務省を志望した理由は？

A. 総務省は、統計行政のほか、自治行政や情報通信行政など様々な業務を行っていますので、自分に合う業務が見つかるのではないかと思います。総務省を志望しました。実際、統計部門だけでなく、他府省への出向など色々な経験をさせてもらっています。

Q. 今までで一番印象に残った仕事は？

A. 「事業所母集団データベースの整備」という新しい業務を行ったことです。新規業務を行う場合、「どういった効果を狙うのか」、「そのためにどういう取組が必要か」、「その取組は実現可能性があるのか」など想像力を働かせなければいけません。この想像力を働かせるにあたっては、これまで学んできた知識や、他業務で先輩たちが蓄積した知見が活用できます。試行錯誤しつつ、そして先輩たちに感謝しつつ、アイデアを作り上げていったのは、今思い返しても、やりがいのあった仕事と感じています。

■政府統計の舵取り役

「統計」という言葉を聞くと、難しく感じるかもしれませんが、「国民経済計算」、「完全失業率」、「消費者物価指数」は、教科書や新聞等で見たことがあると思います。これらの統計は、客観的に現状を把握する上で重要なものです。そんな統計の重要性を表すエピソードとして、吉田茂(元首相)とマッカーサー(GHQ最高司令官)との食糧支援に関する逸話があります。紙面の関係上、詳細は書けないので、興味のある方は調べてみてください。

日本は、各府省がそれぞれの施策に応じた統計を作成する分散型統計機構をとっています。この分散型統計機構においては、政府統計全体に統一性を持たせるため、司令塔が必要で、総務省政策統括官(統計基準担当)は、その司令塔を担っています。具体的には、統計に関する法律「統計法」の所管や、政府統計が社会経済情勢の変化に対応するための政府統計全体の整備計画を概ね5年毎に策定しています。

■新しい刺激を受けつつ

私はこれまで統計部門だけを経験してきたわけではありません。内閣官房に出向し法案作成に携わったり、地方公共団体への出向も経験しています。このような定期的な異動により、自分の知らない世界や知識に触れ、その度に新鮮な刺激を受けます。また、所属が変われば必要な専門知識が変わりますが、それらは日々の仕事をこなしながら自然と身につきますし、意外とこれまでの経験、一見関係のなさそうな知識が他の業務を行う際のヒントにもなっています。

統計行政は「改革」を進めているところであり、またEBPM(Evidence-Based Policy Making)の重要性が指摘されるなど、エビデンスである統計の役割は益々大きくなってきています。このような転換期こそ、刺激的で、やりがいのある仕事ができます。

Private Life

平日は職場から外出することが少ないので、休日は遠出し、その街の雰囲気を感じたり、ご当地グルメを味わったりしています。先日は、「袋田の滝」が凍結しているというニュースを見て、思い立って「袋田の滝」を見に行きました。





暮らしに役立つ統計調査

統計局統計調査部消費統計課
企画指導第一係長
高橋 大 TAKAHASHI Dai

- 平成14年 4月 総務省採用
統計局統計調査部消費統計課企画指導第二係
- 平成17年 4月 自治行政局選挙部政治資金課収支公開室
- 平成19年 4月 統計局統計調査部経済基本構造統計課調整係
- 平成21年 10月 統計局統計調査部経済基本構造統計課調整係長
- 平成22年 1月 統計局統計調査部経済基本構造統計課企画係長
- 平成23年 4月 官民競争入札等監理委員会事務局監理専門職
内閣府本府公共サービス改革推進室主査
- 平成25年 4月 大臣官房秘書課主査
- 平成27年 5月 現職

■調査結果は、国民の共有財産

知っている統計調査と尋ねれば、私が担当した「家計調査」が一番あげる人はなかなかいません。家計調査は、毎月約9,000世帯を対象としており、他の統計調査と比べて少ない規模ですが、毎月公表される結果への注目度は非常に高いものとなっています。私は、調査実施にあたり、調査方法の検討や調査票の設計など企画及び指導の仕事を行ってきました。家計調査の歴史は古く、昭和21年から毎月継続して実施しており、世帯の方に『家計簿』をお配りし、毎日の収入・支出を細かく記入していただいています。調査結果は、国民の共有財産として国内総生産(GDP)の推計や消費者物価指数、景気動向指数など、日本経済の動向を把握する重要な指標の作成にも用いられるほか、地方公共団体やマスコミなど実に多くの方々に利用されています。新聞、テレビ等で「出典：家計調査」の文字を見ると、うれしく思うとともに、非常に重要な調査に携わっていることを改めて認識します。

■働くことへの不安と期待

我が国の経済実態を把握するための情報として、昨今、消費統計に強い関心が寄せられており、総務省では新たな取組みとして、ビッグデータ等を活用し、消費動向の全体構造を捉える新たな速報性のある包括的な消費指標として「消費動向指数(CTI)」の開発を進めています。消費指標は、世間の注目度も高く、総務省の果たす役割は、非常に重要なものとなっています。このように書く専門的知識が必要であると思われるがちですが、統計といっても業務内容は多岐にわたり、1人で黙々とこなすのではなく、どちらかと言うと全員で一緒に仕事をする方が多いように感じます。当初は分からないことが多いと思いますが、先輩職員が丁寧に教えてくれるので安心して下さい。また、総務省には、統計以外にも国民生活に密着している仕事が多くあり、私自身、統計以外の仕事も経験しましたが、そこで得た知識、新たな人と交流できたことは掛け替えのない財産となっています。



Private Life

数年前に柴犬を飼いました。最近トリーミングに行った際に体重を計ったら「ぼっちゃり気味」と言われました。私も近年の健康診断で肥満気味と言われました。…なので、休日は犬と一緒にちょっと長めの散歩をし、ダイエットに励んでいます。まだ成果は見られませんが、これからも続けていこうと思います。



「当たり前」を提供するために

統計局統計調査部国勢統計課
研究分析係長
阿久津 文香 AKUTSU Fumika

- 平成17年 4月 総務省採用
統計局統計調査部調査企画課
社会生活統計指標係
- 平成18年 7月 統計局統計調査部国勢統計課審査発表係
- 平成20年 10月 統計局統計調査部経済基本構造統計課
平成23年経済センサス準備室
- 平成22年 4月 政策統括官付国際統計管理官付
(国際統計担当)
- 平成24年 8月 人事院行政官短期在外研究員(英国)
- 平成25年 4月 現職



■日本を「見える化」

日本の高齢化率は25%を超えて、世界最高。ニュースや新聞、インターネットを検索すればよく目にするこの情報、どのように把握したデータだと思いませんか？実は全ての人を対象に調査しています。今どきそんなアナログに？国民に？と思われるかもしれませんが、正確な情報を得るためには、実際に調査することが不可欠なのです。私が担当している「国勢調査」は5年に1度、日本に住む全ての人・世帯を対象に実施している統計調査です。これによって、少子高齢化といった人口構造の変化、東京一極集中や地方の過疎化などの人口移動状況、また人々が普段どのような仕事をして、どのように通勤・通学しているのか、など日本の現状が「見える化」されます。大量の情報に囲まれている昨今、データがあるのは当たり前を感じると思いますが、多くの人たちが関わり、積み上げられた情報が統計データです。知らないうちにできあがっているもの、ではないのです。

■専門的であり、総合的でもある

統計調査の実施に当たっては、地方公共団体、学術関係者、民間企業、そして調査対象となる人々…と多くの方々と接点を持ちます。また、統計は国際比較性が重要であるため、国際機関や外国の統計局とのつながりもあります。私はデータ品質管理や集計企画を担当していますが、イギリス国家統計局で新しい調査方法の研究を行っていたほか、国勢調査の専門家として、国際会議に参加したり、国際協力の現場に赴くこともあります。こうした経験から、行政官としての事務遂行能力はもちろん、コミュニケーション能力、統計の学術的・技術的知識など多面的な能力が必要と感じています。学生時代は、文系で、特に得意な分野もありませんでしたし、なんとなくジェネラルな公務員をイメージしていたので、今の仕事は全く想定外でしたが、業務を通じて専門性を高め、国内外を問わず多くの人と関わることで世界が広がる点が、統計業務の魅力の一つだと思います。

Question & Answer

Q. 仕事をする上で心がけていることは？

A. スケジュール感です。私が担当していた家計調査では、都道府県、調査員、調査世帯へと調査事務が流れていきます。都道府県への説明や調査用品の作成が間に合わないと調査実施に影響を与えてしまいます。一方で1つの調査を実施するに当たり、様々な資料の作成や手続きを踏まなければならないので、我々実施者側の負担も大きなものとなります。そのため、事務負担を分散し、効率的に進めて行くことを心がけています。

Q. 一緒に働くならどんな部下？

A. 正しいかどうかは別として、自分なりの考えをしっかりと持っている人と仕事がしたいですね。長年仕事をしていると自分の中に固定観念を持ってしまつため、人の意見に耳を傾けることで新たな発見があります。そのため、新人職員には、どんどん自分の考えを述べてほしいですね。様々な意見を集約して作り上げたものには、大きな達成感が生まれます。

Week Schedule

✓ Mon JICAの国際協力プロジェクトに国勢調査の専門家として参加。エジプトへ出発！



□ Tue エジプト統計局の担当者から現地の国勢調査について説明を受け、状況を把握。

□ Wed 調査現場を視察。調査員や現地職員の行動で改善点を見つける。

□ Thu 説明や現場視察を踏まえ、エジプト国勢調査の品質改善に関する提案を検討。

□ Fri 提案の改善策が実行できるか、エジプト統計局の担当者とのディスカッション。



Private Life

終業後や週末は、仕事から離れて、リラックスすることを心がけていて、大学時代の友人と今でもよく会います。むしろ卒業後の方が仲が良いくらいです。職場やライフステージはそれぞれ違っても、感覚の似ている友人との時間は楽しく、ほっとします。生活の悩みや仕事の愚痴もお互いここで吐き出して、元気をもらいます。

国民に信頼される 質の高い行政の実現に向けて

○係員時代 〈幅広く知識を吸収〉

係員時代は主に官房業務を担当しました。官房には総務、人事、会計などの業務があり、各部署が業務を円滑に遂行できるよう影で支える重要な仕事です。主に会計業務を担当しましたが、実務を通じて国の予算の仕組みや流れ、各部署の業務内容を幅広く学ぶことができました。当時は残業の毎日でしたが、各部署のいろいろな方々と出会い、日々新しい知識や情報に触れ、それを吸収できる貴重な時間を過ごしました。

○係長時代 〈知識から行動、そして経験〉

係長時代は、本省での行政管理業務、地方支分部局での行政評価局調査や行政相談業務などを担当しました。特に印象に残っているのは第2次行革審事務局での勤務です。当時はバブル経済による地価の異常な高騰で緊急的な土地対策などの改革が求められていました。そうした中、事務局の一員として国の行政改革の中心で、その取組を肌で感じながら仕事できたことは、その後の様々な業務を遂行する上で貴重な経験となっています。

○今、そしてこれから 〈経験を生かし社会のために〉

補佐時代は各府省の政策効果や業務運営上の課題を把握・分析し、その改善に向けて報告等を行う行政評価・監視を担当しました。現在は行政相談の企画を担当しています。行政相談は国の行政に関する苦情や意見・要望の解決を促進するとともに、これらを通じて行政の制度や運営改善に活かすものです。国民に信頼される行政を目指し、これまでの経験を活かしながら国民に寄り添い地域に密着した活動を展開していきたいと考えています。

MESSAGE

総務省では、地域住民からの相談への対応や現地調査などの行政運営の改善活動を通じて、国民生活のあらゆる分野に関する幅広い業務に携わることができます。あなたの力を総務省で活かしてみませんか。

行政評価局行政相談企画課行政相談企画官

楠原 修 KUSUHARA Osamu

昭和53年 5月 行政管理庁採用
四国管区行政監察局
昭和58年 10月 長官官房会計課
昭和62年 8月 行政管理局企画調整課
平成2年 7月 神奈川県行政監察事務所行政相談課行政相談官
平成6年 3月 関東管区行政監察局総務部総務課会計第一係長
平成8年 4月 栃木行政監察事務所総務室長
平成11年 4月 埼玉行政監察事務所総務室長
平成12年 2月 東京行政監察事務所総務室長
平成12年 4月 関東管区行政監察局第二部管区副監察官
平成15年 4月 行政評価局総務課総務係長
平成18年 4月 行政評価局評価監視調査官
平成22年 4月 行政評価局総括評価監視調査官
平成26年 4月 行政評価局調査官
平成28年 4月 現職



総務省というチームが 社会経済の発展を支えています

○係員時代 〈自分の礎となる経験〉

当時はPCに触れたこともなかった自分が、課内研修でプログラミングの知識を取得し、社会経済の基盤となる統計データを集計するための情報システムの開発を行っていました。多数のユーザーの要望を実現するためにチームでモノを作り上げるという貴重な経験は、チームプレーをモットーとする今の自分の基礎を作ってくれたと思っています。当時開発したシステムが大きく進化を遂げた話を後輩達から聞くと、感慨深いものがあります。

○係長時代 〈プロジェクトチームを率いて〉

係長時代は、主に政府全体の情報システム改革に携わりました。新たに開発するシステムも複数の民間事業者を率いて行う大規模なプロジェクトとなり、ユーザーも全庁庁の職員や国民全体となりました。また、官房企画課では、総務省内にある約100システム(当時)のとりまとめを行うなど、関わる人も世界も大きく広がりましたが、だからこそ、仕事をする上での個々の信頼と協力の重要性を実感することができました。

○今、そしてこれから 〈社会経済の発展のために〉

現在は、統計局で統計作成の基盤となるデータベース(全国すべての企業等の情報を網羅したもの)の企画、管理等を行っています。統計は、政策立案や経営判断等の基盤となり、社会経済の発展に欠かせないもので、現在、その統計をより良いものとするべく、政府全体で統計改革が実施されているところです。その一端を担う業務の重要性を実感しつつ、これまで培ってきたチームプレーの精神を発揮して充実した日々を過ごしています。

MESSAGE

総務省は、多岐にわたる業務や多くの方々との関わりを通じて、社会人としてはもちろん、一人の人間として成長できる場所です。皆さんのチャレンジを待っています。

統計局統計作成支援課課長補佐

星野 健 HOSHINO Ken

平成10年 4月 統計センター採用
管理部情報処理課プログラム第2係
平成15年 4月 統計センター製表部情報処理課
平成17年 4月 統計センター製表部情報処理課上級表職
平成19年 4月 行政管理局行政情報システム企画課主査
平成21年 4月 統計センター情報技術部情報処理課
上級情報技術職
平成23年 4月 統計局統計情報システム課最適化企画係長
平成25年 7月 大臣官房企画課情報システム室
情報システム総括係長
平成27年 5月 統計局統計調査部経済基本構造統計課
事業所母集団データベース管理企画係長
平成27年 10月 統計局統計調査部経済基本構造統計課課長補佐
平成29年 4月 現職





暮らしを便利にする仕事

自治行政局住民制度課住民台帳第三係長

平野 聡司 HIRANO Satoshi

平成18年 4月 総務省採用
自治行政局選挙部管理課
平成19年 10月 群馬県総務局市町村課
平成20年 8月 群馬県産業経済部商政課
平成21年 10月 地方公共団体金融機構経営企画部企画課
(兼 経営企画部リスク管理統括室)
平成22年 4月 同 経営企画部リスク管理統括課
平成24年 4月 自治行政局住民制度課外国人住民基本台帳室主査
平成24年 8月 自治行政局住民制度課外国人住民基本台帳室
外国人住民係長
平成26年 4月 自治行政局行政課総務室総務係長
平成28年 4月 現職

■未来を変えていく仕事

皆さん、マイナンバーカードはお持ちですか？マイナンバーカードは、マイナンバーが記載された顔写真真付のカードで、本人確認のための身分証明書として利用できるほか、自治体サービス、e-Tax等の電子証明書を利用した電子申請等、様々なサービスにもご利用いただける非常に便利なカードです。私の担当業務は、このマイナンバーカードの交付の促進です。市区町村が円滑にマイナンバーカードの交付ができるよう、予算を確保したり、広報用の媒体を作成したりしています。

どうすればもっとマイナンバーカードを取得してもらえるのかを考え、効果的な施策を打ち出す事は、確かにとても難しいことではありますが、このような何か新しい事を始めようとする仕事は同時におもしろさも感じることが出来ます。

いつの日か、国民全員がマイナンバーカードを持ち歩く様な世の中になることを信じて、日々の業務に取り組んでいます。

■「ふるさと」への想いを胸に

私は入省2年目で群馬県庁に出向しました。群馬県では、市町村合併の推進や補助金業務の他、中小企業の支援など幅広い分野の仕事を経験させていただきました。また、県庁のサッカー部に所属し、自治体サッカー大会で全国大会に出場するなど、当時の仲間や思い出は今でも大切な宝物であり、かけがえのないものとなっています。

そんな群馬県は自分にとって第二のふるさととなっています。総務省の職員は、そんな「ふるさと」をいくつも抱え、その「ふるさと」への想いを胸に仕事をしています。地方での現場経験と地方に対する愛着こそが、総務省職員の仕事に対する熱意の源なのだと思います。

みなさんも是非総務省でたくさんの「ふるさと」を作り、我々と同じような想いを胸に抱いて仕事をしてみませんか。他の職場では味わうことの出来ない総務省の魅力を感じることが出来ますよ。



Private Life

週末は主に、3才になる子供の世話を楽んでいます。保育園のイベントに参加したり、公園で一緒にサッカーをしたり。ほとんど振り回されてばかりですが、子供の成長を実感することができる事は休日の楽しみの一つです。こうして子供から元気をもらいながら、日々の業務に励んでいます。



選挙制度を通じて、社会に貢献！

自治行政局選挙部選挙課選挙第三係長

荒居 陽子 ARAI Youko

平成21年 10月 総務省採用
自治行政局行政課総務室
平成22年 1月 自治行政局選挙部政治資金課収支公開室
平成23年 10月 福岡県企画・地域振興部市町村支援課
平成25年 10月 地方公務員災害補償基金補償課
平成27年 4月 自治行政局選挙部選挙課
平成27年 10月 自治行政局選挙部選挙課主査
平成28年 4月 現職



■様々な改正で、よりよい選挙制度へ

選挙は、政治参加のために不可欠なシステムですが、最近、改正が多くなされています。例えば、これからの高齢社会を見据えた選挙権年齢の18歳への引下げ、投票価値の平等を目指した参議院選挙における選挙区の合区や衆議院の区割り改定、投票しやすい環境づくりのための、投票日に駅など便利な場所で投票できる「共通投票所」の制度化、国民審査の期日前投票期間の延長などです。これらの改正は、国民の皆さんが貴重な1票を投じて政治参加し、自分の意思を政治的に確に反映させる社会を目指しなされたものです。最近の選挙制度改革を正確に理解し運用すること、さらによりよい投票環境を整備することで、少しでも選挙制度を通じた社会貢献ができていけるのかな、と思います。また、現行の選挙制度や選挙運動規制等について理解を深め、全国の選管や議員・候補者の方々等の疑問に答えることも重要な業務であり、責任重大ですが、同時にやりがいも感じています。

■全国のフィールドで、活躍のチャンス！

総務省では、やはり全国規模の仕事ができることが最大の特徴だと思います。特に昨年は、衆議院の解散・総選挙があり、総務省では比例代表選挙(全国11ブロック)の事務を担当しました。実際に解散されたときの慌しさは想像以上でした。私は、衆院選では主に選挙公報や選挙運動用ポスター・ビラの事前審査・受付の業務を担当しましたが、全国11ブロックごとに届け出た政党分のチェックをしなければならず、かつ間違いや漏れは許されません。責任は重大ですが、小選挙区担当の都道府県選管の協力も得て、選挙が無事に執行されたときの達成感、何物にも代えがたいものでした。また、本省業務以外にも、若手の頃から地方自治体に出向し自治体職員として働く機会もあります。地方自治を考える上で、地方の現場を知ることは大事です。私も2年間、福岡県で県の仕事を勉強させていただき、またたくさんの人と知り合うことができ、とても貴重な経験になりました。

Question & Answer

Q. 地方自治体への赴任経験が総務省のどのような仕事に活かされましたか？

A. 総務省での仕事の中で、最も大きな経験の一つと言えるのが「地方勤務」です。それまでは、主に都道府県を相手に仕事をしてきましたが、都道府県で仕事をするとなると、総務省はもちろん、市町村を相手に仕事することになります。特に、普段から住民と近い距離で仕事をしている市町村の職員の方々は、私たちとはまた違った視点や考えを持っていて、とても良い刺激を得られますし、そうした地方の実情をよく理解することは、地方制度を所管する総務省の職員として非常に重要な事だと思えます。

Q. 仕事をする上で心がけていることは？

A. 自分の仕事が国民のためにどのように役立っているのかを考えながら仕事をしています。目の前の仕事だけに集中するのではなく、この仕事はどう国民生活に繋がっていくのかを意識しながら仕事をすると、仕事のやりがいやおもしろさをより感じる事が出来ると同時に、恥ずかしい仕事をしてはならないという気持ちに駆り立てられ、身が引き締まります。

Question & Answer

Q. 入省後、成長したと思うことは？

A. まだまだ未熟な私ですが、少しは成長したかな、と思うことは、積極的に物事を共有するようになったことです。これまで私は、どちらかというと1人で抱え込みやすいタイプだったのですが、何か問題が起きたときも、あまり悩みすぎず、周囲の方々に頼り、情報などを共有することで、問題解決への糸口がより早く見えてきます。「自分自身で考える」と「周りを頼る」とこのバランスが大事だと実感しています。

Q. 総務省の魅力はどのようなところ？

A. 総務省では、色々なフィールドで、たくさんのお会いがあります。私が出向した福岡県で知り合った方々とは今でも交流が続いており、本省では各自治体から総務省へ出向してくる方々と机を並べて仕事をし、時にはお酒を飲みながら、地域の話に花を咲かせます。皆さん各地域への熱い想いを持った方々ばかりで、一緒に仕事をすることは自分にとっても刺激になりますし、楽しいものです。全国を通じた人との出会いは、総務省ならではの魅力だと思います。



Private Life

土日には、自分の好きなことをしてリフレッシュしています。大好きな野球観戦や演劇鑑賞、美術館・博物館めぐり、寺社仏閣めぐりに行ったり、時にはきれいな景色を求め、カメラを携えて出かけたりもします。最近では、御朱印集めにもはまっています。週末に英気を養って、また来週もがんばろう！と思えます。





幅広い観点から、地域を支える

自治財政局地方債課調整係長
西林 幸泰 NISHIBAYASHI Koudai

平成20年 4月 総務省採用
大臣官房会計課
平成21年 4月 自治財政局公営企業課
平成21年 10月 大分県総務部市町村振興課
平成23年 10月 消防庁総務課
平成26年 4月 自治財政局交付税課検査係長
平成28年 4月 現職

■生活に欠かせない施設の整備のために

皆さんは、「地方債」についてご存じでしょうか？聞き慣れない言葉だと思いますが、地方債とは、自治体が建設事業などの資金を集めるために負担する債務(借入)のことです。皆さんの生活に欠かせない道路や公立病院などは、多くの場合、この地方債を活用しながら建設されています。

自治体が借金してもいいのか？と疑問を持つ方もいると思いますが、建設事業など将来の住民にもコストを負担してもらおうと望ましい場合や災害など一時的に多額の出費が必要となる場合には、自治体がいったん資金を借り入れて、後年度に少しずつ返済していく仕組みが認められています。

自治体は、原則、自由に地方債を発行することができますが、インフラ整備や災害復旧事業が円滑に進むためには、地方債の信用力を補完することや自治体の財政の健全性を確保することが重要となりますので、総務省は、地方債の発行に対して、同意等の事務を通じた関与を行っています。

■総務省の仕事

「総務省」って、どんな仕事をやっているのかよく分からない…と思った方、その気持ち、よく分かります。所管業務がよく分からない理由として、省名が「総務」であることに加え、総務省が幅広い行政分野をカバーしている組織であることが挙げられると思います。

私が所属している自治財政局では、住民に必要な行政サービスが提供されるよう、自治体の財源の保障・調整を行っています。自治体の行う事務の多くは、各省庁の施策と密接に関連しているため、自治財政局の職員には、省庁横断的な知識が必要となります。これは、言い方を変えれば、総務省では、幅広い行政分野に関わり、活躍できるチャンスがあるということです。もちろん、1人で全ての行政分野をカバーすることはできないので、同僚達と協力して業務に取り組むこととなりますが、その分、職員達の一体感は、どこにも負けません。仕事にやりがいを求めている皆さん、私達と一緒に働いてみませんか？



Private Life

平日はデスクワークになりがちなので、休日はできる限り、遠方へ出かけるようにしています。登山やスノーボードにもよく出かけますが、最近では、友人達とアウトドアパークでアクティビティを楽しみつつ、小田原温泉で日頃の疲れを癒やしてきました。



それぞれの力が集結する場所

自治税務局市町村税課諸税係長
併任 大都市税制係長 併任 調査係長
秋葉 瑞希 AKIBA Mizuki

平成23年 4月 総務省採用
大臣官房秘書課
平成24年 4月 自治税務局都道府県税課
平成25年 4月 山口県総合企画部市町課
平成27年 4月 自治財政局財政課
平成28年 4月 併任 自治財政局財政課
復興特別交付税室室員
平成29年 4月 現職



■制度が変わる瞬間を体感する(税制改正)

地方自治体が行政サービスを行うためには当然お金が必要であり、その主たる収入源は、住民の皆さんが納める住民税や固定資産税等の「地方税」になります。私が所属する自治税務局では、これら地方税の充実・強化に資する施策を企画するとともに、税制度そのものを時代に合った姿に変えるために必要な改正(税制改正)を行います。私は、近年急速に販売量が拡大している加熱式たばこに係るたばこ税の改正作業に携わりました。

税制度の改正は国民生活に直結するため、改正の是非や改正内容については、政治の場(税制調査会)で激しい議論が展開されるとともに、短時間で重大な意思決定が求められるなど非常に大きなプレッシャーを感じながらの作業になります。一方、やり遂げた瞬間には大きな達成感を得ることができ、また、制度が変わるまさにその瞬間を体感することができ、改めてスケールの大きな仕事であることを実感できます。

■それぞれの力が集結する場所

総務省では、国の職員だけでなく、地方自治体の職員もたくさん働いています。また、私たち総務省職員も地方自治体に出向して勤務する機会を与えられます。このようにバックグラウンドが異なる職員が力をあわせることにより、多様な知識・アイデア・経験が集結し、よりよい施策が誕生します。また、自分自身が地方自治体勤務で培ったいわゆる「現場感覚」も、これら施策を生み出す上での重要なエッセンスであり、総務省職員こそが持つ強みになります。

地方自治を所管する総務省は、地方行財税制度をまさに国と地方が一体となって作り上げており、この経験は、さらに新たなものを作り上げるための原動力になります。また、一緒に働いた仲間は、自分が壁にぶち当たった時には指南役として、仕事場を離れば気兼ねなく話ができる良き友人として、自分の人生におけるかけがえのない財産となります。新たな仲間として皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています！

Week Schedule

Question & Answer

Q. 今までに一番印象に残った仕事は？

A. 災害復旧事業については、国の手厚い財政措置が用意されていますが、平成28年に発生した熊本地震では、さらに手厚い対応が必要となったため、様々な特例措置を行い、被災地の復旧・復興に深く関わることになりました。地震発生直後は、混乱を極めました。被災自治体と意見を交えながら、国と地方の垣根を越えて、復旧・復興に取り組むことができたと思います。地震の発生から一年後にプライベートで熊本県を訪れ、被災自治体の職員の方々と、お酒を交えてお互いの労をねぎらったことは、今でも忘れられません。

□ Mon 今週中に仕上げるべき課題を確認し、係員とともに作業を開始！

✓ Tue 完成した資料をもとに上司と議論。まだまだ推敲の余地あり。



□ Wed 翌日開催される国会の答弁作成。正確かつ迅速に仕上げます。

□ Thu 外部の会議に参加。地方自治体の意見を生で聞く貴重な機会。

✓ Fri 作成した資料について幹部も了解(夜は打上げで飲み会へ！)



Q. 10年後はどのような仕事をしていたい？

A. 総務省の自治部局の仕事の醍醐味の一つは、国と地方の両方から地方自治にアプローチできることです。私は、入省2年目に大分県に出向し、自治体の業務を経験しましたが、将来的には、責任ある立場で再度自治体に出向し、国で培った経験を生かしつつ、地方の視点を持って、地域住民の生活を支える仕事に携わりたいと考えています。

Private Life

週末は、地元のサッカーチームの応援に足繁く通っています。普段の仕事とはまったく次元の違う喜怒哀楽を感じることができ、身も心もリフレッシュして次の1週間を乗り切る活力にしています。また、学生時代の友人と旅行や飲みに行ったり、ジムに行って身体を動かしたりして気分転換しています。





防災から学ぶ

消防庁国民保護・防災部防災課
田島 大毅 TAJIMA Daiki
 平成29年 4月 総務省採用
 現職

■災害による被害を減らすために

総務省で消防の業務というのはイメージしにくい方も多いと思いますが、私は今、消防庁の防災課と地域防災室に配属され、国や地方公共団体の防災体制の構築から、地域住民の防災活動など、幅広く防災に関する業務に携わっています。主な仕事内容としては、防災に関する統計調査の取りまとめや公表を行ったり、地方公共団体からの問い合わせ対応や、関係省庁との連絡、調整などの業務を行っています。

また、大きな災害が発生した際には、消防庁の危機管理センターに消防庁災害対策本部が立ち上がり、消防庁全庁体制で災害対応にあたります。

地震、台風、火山噴火など、さまざまな自然災害の脅威がある中で我々日本人は暮らしています。こういったさまざまな自然災害による被害を減らすため、国や地方公共団体の防災体制を構築したり、地域住民一人ひとりが防災意識を高めることは非常に重要なことです。

■総務省に入省して

入省1年目で消防庁に配属になり、4月当初は右も左も分からないような状態でしたが、周りの上司や先輩など多くの方々に助けられ、様々な業務に携わらせていただきました。

1年目という立場で、全国の都道府県や市町村の担当者に対する研修会を企画・実施したり、また、7月には九州北部豪雨が発生し、災害対応も経験しました。

また、総務省では、都道府県や市町村から出向されている方々と共に仕事をしています。特に消防庁では、日々現場で災害対応にあたっている消防士の方々と共に仕事をすることができ、貴重な経験をさせていただきました。こうした方々と出会えることも、総務省の大きな魅力の一つだと思います。ぜひ総務省で、一緒に働いてみませんか？



Private Life

休日は職場の同期と遊びに行きます。温泉やキャンプに行ったりするなどして、休日はリフレッシュしています。同期はこれからずっと共に働いていく仲間なので、仕事では切磋琢磨しながら、プライベートでは絆を深めていけたらと思います。



Question & Answer

Q. 総務省を志望した理由は？
A. 説明会で総務省を訪れた際に、説明されていた職員の方の雰囲気がとてもよく、職場の明るさを感じました。また、総務省では、地域振興や地方財政、地方税制、消防など、多岐にわたる業務を経験することができ、さらに、地方勤務の機会もあります。こういったさまざまな経験を通じて、自分を成長させてくれる職場だと感じたのが、総務省でした。

Q. 入省して一番驚いたことは？
A. 総務省は全国の自治体から出向されている方が非常に多いです。いろんな県や市町村の方と出会い、全国につながりを持っていることは、非常に魅力的です。また、仕事にとってもスピード感があります。このような上司や先輩のスピード感ある仕事ぶりは、1年目の私には非常に勉強になります。

地域の元気を引き出す力になる。

○係員時代 〈消防行政から税務行政を経て市町村財政の支援を経験〉

消防庁では消防職団員等の表彰に係る業務に携わりました。人命優先の立場から、災害による死傷者の発生を最小限にとどめるために努力されている方々に学ぶことは多く、自分はそのようにして国や地方に貢献できるのかを考えていました。自治税務局では市町村財政を支える安定した基幹税である固定資産税の償却資産に係る業務を担当し、制度や実務を学びました。その後、奈良県に赴任し、市町村の財政を支援する業務を経験しました。

○係長時代 〈「地方自治」の視点で行政のあり方を議論、そして現場へ〉

「地方分権一括法」の施行により、わが国の地方自治制度の姿を一新するための取組が行われた後、本格的な地方分権時代を迎え、地方公共団体が自らの責任と判断でその任務を遂行し、住民の負託に応えていかなければならないという基本的認識に立ち、各省庁との調整、法律・政令の立案や国会対応を経験しました。その後、鶴ヶ島市に赴任し、企画財政を所管する立場から、住民に身近な事務権限の委譲を積極的に県から受けることや、官民連携による地域資源の活用・企業誘致により「稼ぐ力」を引き出すこと等様々な行財政改革を実行しました。

○今、そしてこれから 〈「東京一極集中」の是正を目指して〉

「地方創生」の実現には、地域の「稼ぐ力」を引き出し生産性の高い雇用を創出すること、地方への「ヒト」の流れをつくる必要があります。また、これらの受け皿(生活圏である「まち」)の整備も必要です。現在、過疎地域等に定住を図る「地域おこし協力隊」、定住の受け皿を形成する「定住自立圏構想」等を推進しています。さらに、地域や地域の人々と多様に関わる者である「関係人口」に着目し、新たな事業をスタートしています。

MESSAGE

総務省では、地方勤務の経験をいかして、地方(故郷)のために仕事ができること、そして、地方に赴任し、現場から新たな課題に挑戦することができることも魅力です。皆さんと一緒に仕事ができる日を楽しみにしています。

自治行政局地域自立応援課主幹

萩原 良智 HAGIWARA Yoshitomo

平成13年 4月 総務省採用
 消防庁総務課
 平成14年 4月 自治税務局固定資産税課
 平成15年 4月 奈良県総務部市町村課
 平成16年 10月 公営企業金融公庫融資部融資第一課(兼 第二課)
 平成18年 9月 自治行政局行政課総務室
 平成19年 4月 自治行政局行政課総務室総務係長
 平成20年 4月 自治行政局行政課行政第四係長
 平成22年 4月 自治行政局行政課行政第三係長
 平成24年 4月 鶴ヶ島市総合政策部長
 平成27年 4月 自治行政局地域自立応援課企画係長
 併任 自治行政局地域自立応援課定住自立圏推進係長
 併任 自治行政局地域自立応援課人材活性化・連携交流室
 平成29年 4月 現職





ラテンの国+総務省

国際戦略局国際経済課中南米係長
今泉 理良香 IMAIZUMI Riyoka

- 平成21年 4月 総務省採用
総合通信基盤局電気通信事業部
高度通信網振興課
- 平成23年 4月 大臣官房会計課
- 平成25年 8月 総合通信基盤局総務課(日墨交換留学)
- 平成26年 8月 情報通信国際戦略局国際協力課
- 平成27年 8月 情報通信国際戦略局国際経済課中南米係長
- 平成29年 9月 現職

■国際経済課中南米経済係

私は、タイトルの国際経済課という課に所属しており、その中でも中南米を担当しています。ラテンの国と総務省の業務はなかなかイメージが結びつきにくいとは思いますが、実はそういう仕事も総務省にはあるのです！具体的には、中南米各国の関係省庁と連絡を取り合い、各国の政策、社会課題について議論したり、その課題を解決するために日本の最先端の情報通信技術を紹介したりしています。また、実際に現地に出張して、日本の最新技術を紹介するセミナーを開催するなど、日本のICT関連企業の海外展開の支援もしています。先日ペルーで開催したセミナーでは、日本政府代表としてプレゼンを行い、とても緊張しましたが、非常に貴重な経験になりました。セミナーが成功し、ペルー政府と日本企業の商談も進み、大きな成果となりました。中南米の人々と仕事をするのは、時差もあり大変なことも多いですが、両国の協力関係が一步進んだことが目に見えたときの喜びは、ひとしおです。

■たくさんのアミーゴ

総務省に入省した時には、自分が中南米担当になり、何度も中南米へ出張するなんて思ってもみませんでした。しかし、今では出張した数だけ、中南米のアミーゴ(友達)ができ、「また会えたね!この間のセミナーは良かったよ!」などと言ってもらえるようになりました。出張前は、時差や事前準備が大変なときもありますが、アミーゴたちと再会できると心も弾みます!また、中南米も女性の登用が進んでおり、用務の合間のランチでは、ハイレベルの方々女子トークで盛り上がることもあります。総務省でこんな仕事ができるなんて知っていましたか?日本国内はもちろんのこと、世界中のアミーゴと仕事ができるなんてわくわくしますよね。日本の代表として出張しているので、事前準備や現地対応はぬかりなく、でも現地では陽気なアミーゴたちと親交を深める、それもこの仕事の楽しみのひとつだと思っています。



Private Life

中南米の方々と言葉でコミュニケーションができると仕事も楽しくスムーズに進むので、週末はスペイン語を勉強したりしています。また、長期のお休みの時には、沖縄や海へ出かけてダイビングを楽しんだりしています。



ICTの活用で社会を便利に

情報流通行政局情報流通振興課
 情報流通高度化推進室海外展開係長
赤坂 勇磨 AKASAKA Yuma

- 平成23年 4月 総務省採用
情報流通行政局放送政策課
- 平成24年 8月 大臣官房総務課
- 平成26年 8月 情報通信国際戦略局情報通信政策課
- 平成28年 10月 情報流通行政局情報流通振興課
情報流通高度化推進室海外展開係長心得
- 平成29年 7月 現職



■医療・健康分野へのICT(情報通信技術)の利活用について

私の所属する情報流通高度化推進室では、医療・介護・健康分野におけるICTの利活用を推進しています。私の中でも①AI(人工知能)を活用し、自治体に最適な健康指導政策を提案するシステムの開発、②電子カルテや医療画像等、医療に関する様々な情報をクラウドに安全に保存するためのセキュリティ基準(ガイドライン)の策定、③日本の最先端の医療ICTの海外展開などを担当しています。

特にAIは、ここ数年急速に注目を集めており、今後、医療・健康分野にどのように活用していくかが課題となっています。そのため私は、医療・健康分野で蓄積されている様々な情報をAIで解析することで、自治体の健康づくり政策等にどう活用できるかという問題意識を持ちながら、日々、医療関係者、研究者及び事業者等と調整を行っています。

■ICTを活用し、新たな社会へ

就活生の皆さんはICTと聞くと何を思い浮かべますか?例えば、日頃皆さんがお使いのスマホやタブレットはICTを最も身近に感じられるモノかもしれません。今から8年前、皆さんが中学生の頃の2010年は、スマホの世帯普及率は9.7%(総務省「情報通信白書」)でした。皆さんもその頃はガラケーと呼ばれる折りたたみ型の携帯電話を使っていた方が多いのではと思います。それが現在では71.8%と急激に普及しています。スマホを例にしてみました。ICT分野はとても技術革新が早いことが特徴です。ウェアラブル端末、VR機器、スマート家電等のICTを活用した新たな製品は毎年のように発売されています。総務省では、このような技術革新の早いICTを活用することで、社会が抱える様々な課題を解決し、新たな社会基盤を作っていくための政策を進めています。政策を進めて行く中では、関係省庁や事業者との調整等大変なこともありますが、それ以上に大きなやりがいを感じることができる職場だと思います。



Private Life

休みの日は妻や学生時代の友人と遊んだり、旅行に出かけたりすることが多いです。また、職場の同期と遊ぶこともあります。この写真は、同期の結婚祝い旅行の際に撮った写真です。



Week Schedule

- Mon 明日からのペルー出張のために、資料やプレゼンの準備。
- Tue 出張へ!時差がつらいけれど、到着後は大使館の方とセミナーの事前打ち合わせ。
- Wed セミナー初日。緊張しながらもプレゼン成功しました!



- Thu セミナー2日目。セミナー後は、ペルー政府の方々と一緒にペルー料理でランチ。



- Fri セミナーの後片付けをして、いざ日本へ帰国します。

Question & Answer

Q. 総務省の魅力は?

A. 総務省の魅力はフラットに議論できる環境だと思います。ICT分野は技術革新が早く、内容によっては若手職員の方が詳しいこともあり、上司や事業者とも積極的に議論を交わすことができます。また、上司も部下の意見をフラットに聞いてくれることが多く、良い施策については立場を問わず採用してくれる環境があります。立場関係なく議論出来る環境は大きな魅力だと思います。

Q. どんな仕事に挑戦したい?

A. 総務省では、地方自治体等に出向し勤務している職員がおります。出向は総務省の外から総務省を見直し、国民の目から総務省がどう見えているのかを把握出来る貴重な機会です。行政官として視野を広げるためにも、総務省外の業務にも積極的に取り組んでいきたいと考えています。



放送のこれからを見据えて

情報流通行政局放送政策課事業振興係長
林田 雄亮 HAYASHIDA Yusuke

平成16年10月 総務省採用
情報通信政策局総合政策課
平成18年 8月 大臣官房秘書課
平成20年 7月 総合通信基盤局電気通信事業部料金サービス課
平成22年 4月 総合通信基盤局電気通信事業部料金サービス課
基幹通信係長心得
平成22年 7月 総合通信基盤局電気通信事業部料金サービス課
企画係長心得
平成23年 4月 人事院行政官国内研究員(京都大学大学院)
平成25年 4月 情報通信国際戦略局国際政策課総括係長
平成27年 8月 現職

■“身近な”放送と環境変化

テレビ放送やラジオ放送では、毎日、ニュースやドラマ、バラエティ、スポーツなど様々なジャンルの番組が流れており、放送は私たちの生活にとって非常に「身近」な存在だと言えます。一方、災害時には、刻一刻と変わる状況を伝えるライフラインとして機能するなど、社会で重要な役割を担っています。

しかし、近年、放送を取り巻く環境は変化しています。テレビの高画質化が進む一方で、スマートフォンやタブレットが爆発的に普及し、放送だけでなく、インターネット経由で様々な動画が視聴できるようになりました。このように、放送を取り巻く環境が大きく変化の中で、放送が引き続き社会で重要な役割を果たしていくための一助となるべく、国内の最新の動向をフォローし、過去の歴史や経緯を確認し、諸外国の状況なども調査するなど、日々の業務に取り組んでいます。

■変化の激しい情報通信の世界

情報通信の世界は、テレビや携帯電話など身の回りの端末をみても、私が入省した10数年前からの進歩は著しく、この先の10年後も、今とは大きく違った世界になっているはず。このように、変化の激しい情報通信の世界で、最新の動向を見ながら、制度作りに関わることができるのが、総務省の情報通信行政の業務の魅力と言えると思います。

また、入省後は、多様なキャリアパスがあります。私自身も、省内でインターネットや携帯電話などの電気通信の担当、情報通信分野の国際担当、現在の放送担当など、様々な業務を経験してきたほか、人事院の制度で国内留学も経験しています。総務省では、その他、地方自治体や海外の大使館等への出向など、様々な経験を積む機会が用意されています。

総務省の所掌は非常に幅広く、皆さんが総務省を訪問されれば、きっと自分に合った仕事を見つけることができるはず。皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています。



Private Life

休日は平日の疲れを癒しながら、子供と近所の公園に遊びにいたり、植物園に出かけたり、買い物に出かけたりして、家族と一緒に居られる時間を楽しんでいます。まとまった時間がある時は、レンタカーを借りて旅行に行くなどして、リフレッシュしています。



利用者目線を忘れずに

総合通信基盤局電気通信事業部消費者行政第一課
インターネット利用環境整備係長
岡本 かおり OKAMOTO Kaori

平成16年 4月 総務省採用
総合通信基盤局総務課
平成16年 7月 総合通信基盤局電波部電波政策課電波利用科企画室
平成18年 8月 文部科学省研究開発局参事官付
平成20年 7月 情報流通行政局地上放送課
平成22年 1月 情報流通行政局総務課企画係長心得
平成22年 7月 情報流通行政局総務課企画係長
平成24年 4月 人事院行政官国内研究員(一橋大学大学院)
平成25年 4月 情報流通行政局郵政行政部企画課制度係長
平成27年 8月 総合通信基盤局電波部基幹通信課調整係長
平成28年 7月 総合通信基盤局電波部基幹・衛星移動通信課
基幹通信室調整係長
平成29年 7月 現職



■大人も子ども!安全なネット利用に向けて

私たちの毎日の生活に欠かせない存在であるインターネット。そして、スマートフォンは、時と場所を問わず多方面で利用できる便利さから、幅広い年齢層へ普及しています。一方で、特にSNSの利用に起因するトラブルが増加していることも確かです。

私が所属している消費者行政第一課では、特に青少年が安全・安心にインターネットを利用するための周知啓発等の施策の検討を行っています。青少年と言っても、今やスマートフォンは小学校低学年や未就学児にも利用者が広がり、低年齢化が進んでいます。そこで、青少年本人だけでなく、その保護者や学校等の教職員の方々にも青少年の利用実態を把握していただき、対策等を知っていただくための周知啓発が大変重要であり、今後の取り組みのポイントの一つでもあります。

変化の激しい情報通信分野の中で、皆が正しい知識を持って便利にインターネットを活用できるよう、今後もアンテナを張り巡らせて行きたいと思っています。

■一人一人の可能性を大事に

私が学生の時は、まだまだ就職氷河期の真っ只中にあり、官庁訪問でも不安でいっぱいでした。そういった中で受ける面接では、面接官に試されているという印象を強く持ったのですが、総務省は違いました。一言で言えば、「ここは一人一人を大事にして可能性を伸ばしてくれる職場だ!」ということでした。というのも、職員との対話の中で、やる気の根源や可能性を探り引き出そうと試みていると実感できたからです。それは現在まで総務省で働いていて、職場の雰囲気とイコールだと感じている点でもあります。総務省の情報通信分野は、変化が激しく時の流れに柔軟かつ迅速に対応することが求められます。だからこそ、一人一人が持つ能力を尊重し活かしてくれる職場であることが、フットワーク軽く仕事を進めていくための要素として不可欠です。仕事は自分のやりたい分野で、かつ自分に合った雰囲気の職場に恵まれること、これが何より大事ですね。

Question & Answer

Q. 総務省で実際に仕事をしてみて、入省前のイメージと違ったところは?

A. 入省前は役所といえ堅い所、というイメージでしたが、実際に総務省に入省して情報通信部局に配属されてみると、思ったよりも職場の雰囲気は柔らかく、自由がある職場だなという印象を受けました。また、業務の内容についても、入省前に考えていたよりも、様々な分野の物事について、幅広く・深く調べる機会があり、色々なことを勉強できるという意味で、刺激的な職場だと感じました。

Q. 今までで一番印象に残った仕事は?

A. 以前、情報通信分野の国際担当部局で、当時の総務大臣に情報通信技術の売り込みのために海外へ出張に行って頂いた際、広報担当として随行したことがあります。そこで、出張先での先方要人との会話の様子が、国内外のテレビでニュースになっていたのを見たときは、自分たちの成果が形として報じられたということで、充実感があつたことが印象に残っています。

Question & Answer

Q. 総務省を志望した理由は?

A. 私は、大学時代、情報通信分野を専攻していたわけでもなく、専門的知識があつたわけでもありません。ただ、インターネットの便利さが社会の中で実感されはじめ、今後多方面で広がりを見せるのではないかと感じられる反面、セキュリティ面やその他の様々なリスクも問題になっている、という認識でしたので、今まさに国がやるべき事はプラスマイナス両面で山ほどあるのではないかと感じました。インターネットの一人利用者としての目線ではありましたが、その両面に携わることができる総務省に魅力と可能性を感じ、志望しました。

Q. 仕事をする上で、心がけていることは?

A. 常にインターネットや様々な手段を用いて情報収集に努め、世の中で何が起きているのか把握するように努めています。その上で、既存の施策で対応できるか、方向転換の必要があるかの判断が必要になるわけですが、どちらになっても自らの考え方も行動も柔軟に対応できるよう、自分のキャパシティを広く持っておくよう心がけています。



Private Life

とにかく運動することが大好きで、土日は朝からジムで筋トレをしたり、エアロビクスやステップのレッスンに出たりと大忙しです。また、イベントにも足を運び、共通の趣味を持つ友人との交流の輪を広げています。運動をするとうまくご飯が美味しく、体がどんどん健康になっているのが分かり、一週間の仕事の活力になります。



通信行政の 役割と面白さ

総合通信基盤局電波部基幹・衛星移動通信課
重要無線室重要無線係長

戸部 絢一郎 TOBE Junichiro

平成15年 4月 総務省採用
総合通信基盤局電波部電波政策課
平成17年 8月 総合通信基盤局電波部移動通信課
平成19年 7月 総合通信基盤局電気通信事業部消費者行政課
平成21年 7月 総合通信基盤局電波部衛星移動通信課海上係長
平成24年 8月 総合通信基盤局電波部電波政策課第三計画係長
平成27年 4月 総合通信基盤局電波部基幹通信課
重要無線室重要無線係長
平成28年 7月 現職

Question & Answer

Q. 入省後、成長したと思うことは？

A. 学生時代は、電波をはじめとする通信工学が専門だったのですが、成績的には数学が得意で電波は苦手な分野でした。仕事で触れているうちに、より深い無線の仕組みや、実社会におけるレーダーの活用について詳しくなることができました。また、前述したパトカーが現場に到着する仕組みもそうですが、鉄道が緊急時に停止する仕組み、船舶が衝突せずに安全に航行する仕組み、緊急地震速報を瞬時に住民に伝える仕組みなど、社会インフラの舞台裏を知ることができたので広い知見が育ってきていると思います。

Q. 10年後、どんな仕事をしたい？

A. 10年後も、同じように情報通信行政の分野で仕事をしたいと思っています。新しい物好きなので、これだけ早く新技術や新サービスが登場するこの分野はとても刺激的ですし、何よりも好きな情報通信に関するすべての情報が集まる場は他にはなく、苦しいときもあると思いますが、これからも情報通信行政に携わりたいです。



■身近で大切な無線

皆さんは110番通報をしたことはありますか？110番通報をして、自分の居場所と状況を警察本部に伝えると、数分後には目の前にパトカーが到着します。パトカーの警察官と直接話したわけではないのに、パトカーがその場所に来る。それは、警察本部は常にパトカーの位置を「無線」で把握していて、「無線」によって通報の内容を配備中のパトカーへ指示をしているからです。無線を使用するには、基本的に総務省からの許可が必要となります。私はこの警察無線や消防救急無線、防災行政無線などの、国の機関や自治体が使用する無線システムの許認可を担当しています。これらの無線は、普段の生活の中では見えにくいですが、人命に関わる事件や事故、災害の対応をはじめとして、国民の皆様が安心して日々の生活を送るために必要な役割を担っている、とても大切な無線です。街中で警察官や消防隊員の方を見かけると、つい彼らの無線機にも目がいき、今日も「無線」が元元よく働いているかが気になります。

■遊びの中から広がる仕事の面白さ

私は、情報通信に関係する分野に所属しているので、同僚も情報通信が好きな人が集まりやすくなります。同僚と、仕事以外では主にスマートフォンの新機種や新機能、ゲームの話などの会話で盛り上がり、皆で夜の暑い街に繰り出してモンスターを集めたりもしました。これらを仕事目線で見てみると、情報通信分野の担当としては気になる技術も多いです。例えば「無線LANがどれくらいの距離まで通信可能か？」ということに理論値はありますが、私は同僚と携帯ゲーム機を対戦モードにしながら、どの程度離れたら無線LANの通信が途切れるかを試したことがあります。もちろんこれは半分遊びでやった事ですが、無線LANの性能を感覚的に知ることになりますし、誰かに説明するとき自らの経験を交えて説明することができます。遊びの中でも仕事につながることを見出し楽しめるようになると、仕事にポジティブになることができます。



Private Life

休日は鉄道が大好きな息子(2歳)と一緒に、新幹線を見に東京駅へ行ったり、蒸気機関車のある公園へ遊びに行ったりしています。また、パソコンをいじることが好きで、特に新しいパソコンを作る時に、性能とお財布状況を考えてパーツ選びをすることと実際に組み立てる作業がとても楽しいです。



経験の幅は、 将来の仕事の幅

○係員時代 〈職員としての基礎作り〉

採用1年目から「情報通信白書」作成の担当をしたことは、非常に貴重な経験でした。右も左もわからない中で、省内外のICT分野に関する資料やデータを集め、政府の報告書としてまとめる作業は、職員としての基礎となる貴重な勉強だったと思います。この時期、最も記憶に残っていることは、係長に「君はもう学生ではなく職員なのだから、客観的ではなく、責任を持って主体的な文書を書くべきだ」と言われたことです。

○係長時代 〈外部の視点で業務を再認識〉

係長になって、2度の出向を経験しました。1度目は在香港総領事館で、現地政府の方との初めての打ち合わせの際、日本政府代表として参加することに武者震いしたのを覚えています。2度目は福岡市役所でした。市民生活に直結する自治体の苦労や、自治体ごとの地域性の違いを知り、同時に国の仕事の重さも再認識しました。こうした出向経験は、霞ヶ関での仕事を外部の視点から見つめなおす素晴らしい機会となりました。

○今、そしてこれから 〈経験が業務を活かす〉

現在、ICTを活用した取組を行う自治体の支援を担当していますが、そこには自治体出向時代の経験が活かしていることを強く実感しています。今の立場になって改めて考えると、自治体出向時代の経験を含めた、これまでの経験がいかに現在の業務遂行の糧となっているかを強く実感します。特にICT分野は、今後ありとあらゆる国民生活・経済活動と結びついていくので、幅広い経験をしたことは、必ずいつかこれからの業務にも生きてくるだろうと感じています。

MESSAGE

総務省の所掌分野は幅広く、中でもICT分野の情勢変化は急速で、やりがいのある行政分野だと思います。積極的に新たな業務にチャレンジする、アクティブな後輩がたくさん入省してくれることを期待しています。

情報流通行政局地域通信振興課
地方情報化推進室課長補佐

加藤 陽介 KATO Yosuke

平成10年 4月 郵政省採用
大臣官房人事課人材開発課
平成10年 7月 大臣官房企画課企画調査室
平成12年 7月 大臣官房企画課
平成13年 1月 総務省情報通信政策局総合政策課
平成14年 8月 情報通信政策局情報通信政策課
コンテンツ流通促進室
平成16年 7月 情報通信政策局情報通信利用促進課対策係長
平成18年 7月 外務省在香港日本国総領事館副領事
平成21年 7月 総務省大臣官房秘書課機構・定員第三係長
平成24年 8月 大臣官房秘書課人事第三係長
平成26年 8月 福岡市総務企画局ICT戦略室ICT戦略課長
平成29年 4月 現職



柏瀬 理沙

総合通信基盤局
電気通信事業部
事業政策課



袖原 まりな

大臣官房秘書課



真田 隼助

政治資金適正化委員会
事務局



河原 諒

自治財政局
公営企業課



下野 瑠紀

自治大学校庶務課



高橋 陸

統計局総務課



大島 慎人

政策統括官付
統計審査官付

高橋 一世

行政評価局総務課



安田 百花

大臣官房会計課

阿部 大二郎

統計局
統計調査部
国勢統計課



神田 良介

消防庁消防大学校
庶務課



福岡 太一

行政評価局
評価監視官付



加藤 鞠花

行政評価局企画課



本田 天真

総合通信基盤局電波部
基幹・衛星移動通信課



平成30年度
入省者に聞きました!

ふるさとと自慢は?

高橋 夏葉

消防庁総務課



廣川 輝宏

統計局統計調査部
経済統計課



内山 詩央里

情報流通行政局
地上放送課



岩田 遥香

大臣官房会計課

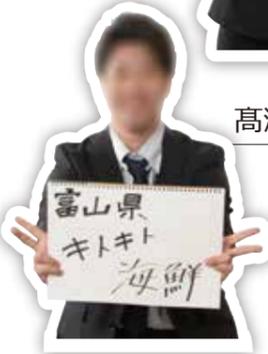
徳野 瑤子

自治行政局
選挙部政治資金課
支出情報開示室



高瀬 晋太郎

大臣官房秘書課



片瀬 巧哉

情報流通行政局
情報流通振興課



古川 知明

行政評価局
評価監視官付



安定

大坪 奏子

情報流通行政局
情報流通振興課



藤崎 顕史

総合通信基盤局総務課



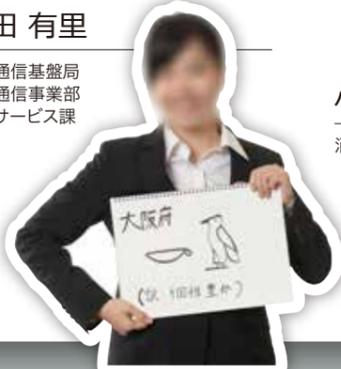
川口 涼

統計局総務課



岩田 有里

総合通信基盤局
電気通信事業部
料金サービス課



小龍 裕紀子

消防庁総務課



森 俊貴

行政管理局管理官付



坪崎 奈々恵

行政評価局
評価監視官付



佐藤 龍馬

消防庁
消防・救急課



古賀 亮平

総合通信基盤局
総務課



溝井 亮太

大臣官房秘書課



松本 雅弘

行政管理局
管理官付



原 梨花

行政評価局
総務課



高橋 一生

消防庁総務課



渡邊 章

自治行政局
公務員部福利課
安全厚生推進室

高木 真也

自治財政局
財政課総務室



三ツ井 梨佳子

行政管理局管理官付



鈴木 稜河

自治行政局選挙部
政治資金課
支出情報開示室



佐藤 典子

総合通信基盤局電波部
電波環境課監視管理室



中山 絵美子

政策統括官付
統計企画管理官付



平成30年度
入省者に聞きました!

セールスポイントは?

畠野 恵

統計局統計調査部
調査企画課



宇都宮 千咲

情報流通行政局
情報通信政策課



都筑 柊太

大臣官房
秘書課



伊藤 月子

統計局
統計利用推進課



日高 涼菜

統計局統計
作成支援課



久芝 正成

自治大学校
教務部

緑川 拓海

自治行政局選挙部
管理課



今はまっているのは?

石井 沙織

自治税務局企画課総務室



中里 伸成

総合通信基盤局電波部
基幹・衛星移動通信課
基幹通信室



鎌田 亜希子

統計局統計調査部
国勢統計課



三浦 崇英

国際戦略局
国際協力課



中山 拓人

統計局統計調査部
消費統計課

内田 琢也

自治行政局行政課総務室





変化し続ける社会、より良い行政とは

近畿管区行政評価局評価監視部評価監視調査官
竹内 秀興 TAKEUCHI Hidetaka

- 平成18年 4月 総務省採用
近畿管区行政評価局
- 平成19年 4月 京都行政評価事務所評価監視官付
- 平成20年 4月 行政評価局総務課
- 平成21年 4月 行政評価局評価監視官付
- 平成22年 4月 京都行政評価事務所
年金記録確認京都府第三者委員会事務局調査員
- 平成24年 4月 京都行政評価事務所行政相談課業務係長
- 平成25年 4月 兵庫行政評価事務所評価監視調査官(総務課)
- 平成27年 1月 兵庫行政評価事務所管理専門官
- 平成27年 4月 近畿管区行政評価局第二部評価監視調査官(総務課)
- 平成27年 8月 近畿管区行政評価局総務行政相談部総務課人事係長
- 平成29年 12月 現職

■“より良い行政を目指す”様々な調査

全国各地の管区行政評価局では、地域における国の行政の実態把握や改善を行うことを目的として、行政評価局調査、行政相談、情報収集活動等の業務を実施しています。私は入省から12年間、これらの業務を経験し、現在は行政評価局調査を担当しています。

管区行政評価局の調査担当者は、4か月周期を基本に、様々な行政課題をテーマとした調査を実施しています。①全国調査網を活用した調査(本省が企画)、②地域計画調査(管区行政評価局等が企画)の2種類の調査がありますが、いずれの場合も、管区行政評価局では4か月ごとに次々と新たなテーマの調査に取り組むことになります。私がこれまでに携わった調査テーマを挙げるだけでも、労働安全、観光振興、年金、研修施設の管理、物品の調達・・・と多岐にわたります。

■日頃から情報収集、チームで情報交換

多様な調査テーマについて、社会の変化のスピードに対応した適切な改善策を導き出すためには、日頃の情報収集が肝要となります。報道や書籍からだけでなく、普段通りかかる風景の移ろい、道行く人の会話・・・日常生活からキャッチできる事柄もあります。今、この場所で、何が課題となっていて、どうあるべきなのか。アンテナを張り巡らせつつ、日々勉強です。

また、職場での情報交換も大切です。職員の人柄や得意分野は様々ですが、業務を通じて(業務と関係ないことも・・・?)自然と議論や意見交換が行われる雰囲気があります。若手であっても、意見を求められ、チームの一員として業務に携わります。

どんなタイプの方も歓迎です。“より良い行政を目指す”私たちの仕事に少しでも興味を持たれたようでしたら、是非、一緒に働きましょう。

Private Life

1男1女の父で、休日はおおむね家族と過ごしています。子どもがそれぞれ習いごとを始め、妻が娘のバレエの付添い、私が息子のボーイスカウトの付添いという分担になっています。また、時々、職場の先輩・後輩と、休みの日に山登りに出かけたり、仕事の後にカラオケに歌いに行ったりすることもあります。



多様な目線で行政を考える

沖縄行政評価事務所行政相談課
牧野 智美 MAKINO Tomomi

- 平成27年 4月 総務省採用
行政評価局総務課地方業務室
- 平成28年 4月 行政評価局総務課
- 平成29年 4月 現職



■暮らしの中の困りごと、お聞かせください

総務省の行政相談では、国民の皆さんから国の行政などに関する相談を受け付け、相談者と関係行政機関の間に立ち、公正・中立な立場で問題解決のお手伝いをしています。行政相談と聞くと堅いイメージがあるかもしれませんが。しかし実際は、暮らしの中の困った、分からない、こうしてほしいといった事柄について、難しい手続きなしで誰でも気軽に利用できる制度です。

この行政相談を広く利用してもらうために、私たち行政相談課では、総務大臣から委嘱された行政相談委員と協力し、県内各地で相談所を開いたり、様々なPR活動を行ったりしています。平成29年度には、離島市町村である宮古島市で初めて他省庁や県、市町村などがワンストップで相談を受け付ける一日合同行政相談所を開設しました。離島の多い沖縄では、相談したい行政機関が身近にないという環境も多くあり、このように相談機会を提供することも、国民の皆さんの暮らしを良くするための第一歩となっています。

■いろいろな人に出会えます

私が総務省に入省することになったきっかけの一つが、「総務省っていろいろなことをやっているとなんだか面白そう!」という気持ちでした。実際に働いてみて、入省前に思っていた以上に総務省の業務の幅はとても広いなと感じています。職員も多様な分野での経験を積まれた人ばかりで、幅広い価値観を日々学べています。

また、行政相談の業務に限らず、どんな業務を行う上でも、様々な意見があることを理解した上で、バランス良く広い視点で物事を考えることが大切だと思っています。そのため、こういったたくさんの人たちとの出会いがあることは総務省の魅力の一つだと思います。

たくさんの人たちとの出会いを通して、自身の可能性を広げていきたい人、ぜひ一度総務省に足を運んでみてください。

Private Life

『やりたいことはやれるうちに』をモットーに、あちこち出かけていることが多いです。沖縄に来てからは、海で泳いだり、季節のお祭りに参加したりとますます出かける機会が増えました。たまには、家にこもって映画や本をゆっくり楽しむ時間もつくて、バランスを取りながら自分のやりたいことを全力で楽しんでいます。





国と地方をつなぐ仕事

関東総合通信局情報通信情報通信振興課長

小杉 裕二 KOSUGI Yuji

- 平成11年 4月 郵政省採用
大臣官房人事課 人材開発課
- 平成13年 7月 総合通信基盤局電気通信事業部事業政策課
- 平成15年 8月 総合通信基盤局電気通信事業部消費者行政課
- 平成17年 8月 総合通信基盤局電気通信事業部データ通信課企画係長
- 平成18年 8月 公正取引委員会事務局経済取引局
取引部消費者取引課調査係長
- 平成20年 7月 総務省総合通信基盤局電気通信事業部
料金サービス課接続制度係長
- 平成23年 7月 総合通信基盤局電気通信事業部事業政策課企画係長
- 平成27年 8月 金融庁監督局総務課郵便貯金銀行モニタリング係長
- 平成28年 7月 金融庁監督局総務課郵便保険会社モニタリング係長
- 平成29年 4月 現職

ICT/IoTによる地域情報化の推進

私は現在、関東総合通信局にて、ICTやIoTを活用した地域の情報化推進のため、補助金等の支援策の業務を行っています。例えば、トマトなどハウス栽培の農作物は、温度センサーなどのIoTを使うことで、ハウスを巡回しない遠隔管理が可能となります。また、最近では、街中に公衆無線LANが多く設置されていますが、学校や役場など公的な場所に整備することで、災害時の通信手段として活用できます。総務省は、このような自治体や民間企業によるICTやIoTの利活用に対する、補助金等が多数用意されています。しかし、ただ本省で制度を整備して予算を確保するだけでは、なかなか地域の隅々にまで行き届きません。そこで、私たちは、関東の様々な地域の自治体を訪問し、どのような補助金が見えるのか、他の地域での効果的な先進事例としてどのようなものがあるのかなどの打合せを行い、時にはセミナー等のイベントを地域の方々と一緒に開催するなどして、ICTやIoTを活用した地域の情報化推進に日々奮闘しています。

国の政策立案から地域への浸透まで

私はこれまで、本省において、携帯電話やインターネットといった身近な通信サービスについて、企業間の競争を通じて、安くて質の良いサービスが実現されるように、国の方針を決定し、法律改正やガイドラインの作成業務に多く携わってきました。それにより、光ファイバの利用料金の低廉化や格安スマホの普及など、多様なサービスが実現し、中央官庁で働いていることを実感できるものでした。そして現在は、様々な自治体と直接関わることで、地域の実情を学ぶことができ、ICTの利活用が人手不足や災害への対応といった地域課題の解決につながったと感謝していたり、地方局ならではの魅力も実感できています。中央では国の政策立案から決定までの大きな業務に携わり、地方では、中央の取り組みで実現した通信サービスを課題解決のツールとして活用して、地域の情報化推進に取り組む。このように、国の政策立案から地域への浸透まで、一連の仕事ができるのも総務省の魅力の1つです。



Private Life

休日は、日本全国のクラフトビール工場めぐりを楽しんでいます。できたてのビールを飲むために、ローカル電車とバスを乗り継いで1日ばかりで出かけることも多いです。自然豊かな林の中や景色の良い丘の上のレストランで、地元食材の料理とあわせていただく1杯には、都会では味わえない魅力があります。



イマを支え、ミライにつなげる

北海道総合通信局電波監理部監視課

三宮 裕人 SANNOMIYA Yuto

- 平成21年 10月 総務省採用
北海道総合通信局無線通信部陸上課
- 平成24年 4月 総合通信基盤局電気通信事業部事業政策課
- 平成25年 7月 総合通信基盤局総務課
- 平成27年 8月 総合通信基盤局電波部衛星移動通信課
- 平成28年 4月 北海道総合通信局電波監理部電波利用環境課
- 平成29年 7月 現職



Question & Answer

Q. 仕事をする上で心がけていることは？

A. 国や地方自治体の新しい行政サービスや、民間企業の新しいICTサービスには、できるだけ関心を持って情報収集しようと心がけています。ただ新聞やネットを見るだけでなく、「このサービスはどうやって収入を得ているのだろう」とか「住民の方が参加するメリットは何だろう」などを意識しながら情報を集めておく、地域課題の解決方法を考えた際、いいアイデアが浮かんでくることもあります。

Q. これまでの仕事で達成感のあったことは？

A. 東日本大震災の復興関連の予算要求が印象に残っています。平成23年当時は本省に在籍し、津波で被害を受けた地域とその周辺への光ファイバ整備に対する補助金について、財務省への難しい説明を任せられ、大きな額を確保することができました。その後予算執行にあたり、総合通信局の担当者と被災自治体を訪問した際には、地元の方から感謝の言葉をいただき、苦勞の甲斐があったと実感できました。

Question & Answer

Q. 総務省を志望した理由は？

A. 情報通信分野の持つ無限の可能性が、今後どう世の中に浸透し社会的役割を増大させるのか。その展望の最前線で、日進月歩の進化を感じながら働けることに魅力を感じ、志望しました。採用当時から比べ、進化した情報通信は一層日常生活にとけこみ、様々な社会問題の解決に向けても活用されていることから、想いは変わることなく働いています。上述の可能性が、更なるミライにどのようなカタチで生活を彩るのか。興味のある方はぜひ、共に進んでいきませんか。

Q. 今後、どのような仕事に挑戦したい？

A. 2019年ラグビーW杯・2020年東京五輪開催時の特別監視体制のメンバーの一員として、現場での知識・知見を広げていければと思います。(総務省では、サミット等の国際会議・スポーツの世界大会など規模の大きなイベントの開催時に、会場周辺の通信環境を守るため、電波の特別監視体制を構築しています)現場経験からの裏付けも自身の引き出しに備え、情報通信分野の行政官として、さらに深みを増していきたいです。

「あたり前に使える」を守る

電波は、携帯電話やWi-Fi、テレビといった身近なものから、消防・救急・警察無線、航空無線や鉄道無線などの公共的なものまで様々な分野で利用されており、私たちの暮らしに欠かせないものとなっています。一方で、電波は相互に干渉しやすいことから、混信・妨害などの電波障害を防ぐためのルールがあり、それらを総務省において監視・監督することで、安心・安全な電波利用環境を維持しています。

私は、その実務を担う電波監理部監視課で、無線局の運用状況の監視を行い、電波障害の排除やルール遵守のための注意などを行っています。電波障害の発信源が車両に搭載された無線機の場合は、走行経路を電波監視システム(DEURAS)から導き出し現地に出勤、方向探知装置を用いて追跡・特定し、排除していくことになります。緊張感を持って道内各地を回る日々ですが、電波利用環境を守る強い使命感と責任感を抱き、業務に取り組んでいます。

自分の可能性を試せる職場

入省以来、消防無線デジタル化における周波数割当計画作成、電波法等一部改正における国会対応、消費税価格転嫁等相談対応、準天頂衛星システム導入に向けた業務、航空機Wi-Fi搭載における周波数要求、電波利用環境保護の広報・監視など、様々な業務を経験してきました。いずれの課においても、上司・同僚は魅力的な方が多く、共に過ごしてきた時間(公私問わず)は、貴重な財産になっています。また、枠に縛られない発想に寛容な風土があります。一例ですが、上述の電波利用環境保護の広報を担当していた際、Web広告・ラジオCMを用いることが多いなか、自ら企画・行動することで、イメージキャラクター(某音楽バンド)のライブ会場で広報活動を展開することもできました。さらに、様々な活躍の場も用意されており、国内外への留学、本省・地方局だけでなく、在外公館や国際機関等への出向、南極観測隊への派遣もあることから、自分の可能性を最大限に試せる職場だと思います。

Private Life

北海道の魅力を再発見すべく、グルメ関係、音楽フェス関係、さまざまなイベント会場に足を運び、地元の良さに触れています。また、学生時代から野球を続けており、現在も札幌市内の草野球チームで日々楽しんでいます。本省勤務時代は、職場の野球部に所属していました。本省野球部、おすすめです！



One Day Schedule



国民の暮らしを支える仕事

「暮らしの中に総務省」このキャッチフレーズを聞いたことがあるでしょうか。総務省は国民生活を支え、暮らしに直結する仕事を幅広く行っています。私が所属する統計局では政府統計の中核的機関として様々な統計の作成・提供を行っています。近年では、政府や地方自治体の政策立案・評価を行う上で「データによる客観的な証拠」として意思決定に欠かせない存在となっています。人々の暮らしを“データ”で支える統計局の仕事はとても魅力的です。

統計局統計調査部消費統計課物価統計室物価指数第一係
泉 和樹 平成29年 4月 総務省採用

09:00

『新聞記事のチェック』

私の1日は新聞のチェックから始まります。私の担当している消費者物価指数は現在最も注目されている統計の1つで、新聞などで引用されることもあります。関連記事があれば課内に回覧情報共有します。



10:30

『問い合わせ対応』

記者の方から統計の作成方法について問い合わせ。自分は理解していてもそれを相手に伝えることは簡単ではありません。統計に関する知識だけでなく説明力が求められます。



12:00

『昼食』

今日は、先輩方と一緒にランチに行きました。食堂で食べることも多いですが、週に1度は少し遠出しておいしいものを食べて午後の業務に備えます。



14:00

『研究会の準備』

来週開催される研究会に向けて準備。研究会では1年以上かけて研究してきた成果について学識経験者の方を交え議論します。資料の準備や会場設営など事務作業も入念に行います。



19:00

『終業後』

今日は定時退庁日。職場の同僚たちと飲みに行くこともありますが、今日はまっすぐ自宅に帰り、自分で作った夕飯を食べながら趣味のDVD鑑賞をしてリフレッシュしようと思います。



One Day Schedule



様々な分野で関わり合える仕事

私は地方自治という分野に興味があり総務省に入省しました。衆院選の際には各都道府県選管と幾度とやりとりをしながら業務を進めていました。また現場の管理執行について、実際に現地にお話を伺いに行く機会もあります。総務省は様々な分野から地方自治体と関わりを持って仕事ができる、とても魅力的な環境だと思います。

自治行政局選挙部管理課
森田 結衣 平成29年 4月 総務省採用

09:00

『出勤、1日の業務の確認』

出勤したら、メールなどを確認します。新聞当番の日は、選挙に関連する記事がないかどうかを確認し、スクラップを作成します。その後で、今日一日でやるべきことの優先順位を考え、自分の一日の流れを頭に入れておきます。



10:00

『研究会準備・参加』

研究会の準備を行います。資料のセットなどを行い、委員の方々をお迎えします。研究会では事務局として参加します。研究会終了後は資料や概要をHPにアップロードします。



12:00

『お昼ごはん』

お昼は同期とでかけたり、デスクでゆっくり過ごしたりと気分転換の時間です。暖かい季節は近くの公園までお弁当を持って出かけたりしました。この日は同期と一緒に、銀座のお店へビビンバランチに行きました。



15:00

『起案文書の説明』

各都道府県選管から定期で報告を受ける調査ものの集計や、衆院選関連の調査などをとりまとめ、課長に内容をご説明します。各選管と電話でやりとりをし、集計に誤りがないか確認し、報道発表に向けて準備を行います。



19:30

『帰庁、お疲れ様でした』

1日の業務も終え、課の皆さんと一緒に飲みに行きます。仕事とそれ以外の時間の過ごし方にしっかりとメリハリがあり、本当に楽しい時間を過ごしています。1日お疲れ様でした。



One Day Schedule



係員でも最前線で働きます！

ICTは資源の少ない日本の大切な成長分野であり、ICTの力でこれから日本はどんどん変化していきます。私は民間企業出身で、ICTとは全く関係のない業界にいたのですが、変化の激しいICT分野だからこそ、制度設計や政策立案に関わることができる機会が多いと考え、ICTを所管する総務省に入省しました。職場は、若手、ベテランの隔てなく意見交換を行える環境です。興味をお持ちの方は、是非門を叩いてみてください。

総合通信基盤局電気通信事業部事業政策課
高鍋 直也 平成28年 10月 総務省採用

09:30

『担当企業と打ち合わせ』

担当している企業のカウンターパートから、法令等に基づいた届出の内容の説明を受けます。係員は打ち合わせ後に議事録を作成して、上司に報告します。



11:00

『財務省へ』

財務省へ公文を届けに行きます。法令に基づく財務省協議も年間をとおして数回あり、係員は窓口となって先方からの質問等の対応をします。



12:00

『昼食』

本日は課の上司にお誘いをいただき、昼食をご一緒しました。昼食は一人でさっと済ますこともあれば、同期や先輩達と銀座や虎ノ門まで行くこともあります。おいしいお店が多いので、是非お気に入りのお店を発掘してみてください。



17:45

『担当企業の認可式』

担当企業の事業計画の認可式が大臣室で執り行われました。係員は認可式の準備や当日の運営サポートを行います。本番はとても緊張しましたが、無事に終わったときは達成感でいっぱいです。



19:30

『1日お疲れ様でした!』

本日の仕事を終えて、課内の上司・同僚と飲み会へ行きます。1週間頑張ったあとの週末のビールは最高です。忙しい時期もありますが、こうしたオフの時間も日々大切にしています。





内閣人事局に出向して

内閣官房内閣人事局服務・勤務時間第一係長
二瓶 和子 NIHEI Kazuko

平成22年 4月 総務省採用
 統計局統計調査部経済基本構造統計課
 平成24年 経済センサス準備室
 平成23年 4月 統計局統計調査部経済統計課企画第二係
 平成24年 4月 独立行政法人統計センター製表部
 管理企画課経済センサス業務推進室
 平成26年 4月 統計局総務課審査係
 平成29年 7月 現職

■国民全体の奉仕者として

内閣人事局は国家公務員の人事に関する諸政策を担う組織として、2014年5月に設置されました。そこで私は今、国家公務員の服務や倫理、勤務時間等に関する業務を担当しています。国民全体の奉仕者として、国家公務員が公共の利益のために働くには、官庁綱紀の厳正な保持が重要です。通常選挙、総選挙、統一地方選挙における国家公務員の服務規律の確保について通知を行ったり、国家公務員の倫理の保持に関する状況や倫理の保持に関して講じた施策を毎年国会に報告したりと、担当する業務内容は様々ですが、日々緊張感を持ちながら働いています。

人事行政に携わるのは初めてのことで、仕事の難しさに悪戦苦闘することも多々ありますが、周囲の皆さんの優しさに支えられながら業務に取り組んでいます。

■幅広い分野で活躍したいあなたに

総務省は、地方行政、情報通信、行政評価、統計行政など非常に幅広い業務を所掌しており、やりたいことをひとつに絞らなくてもいいところが魅力です。自分の可能性を限定せず、幅広い分野で活躍したい方におすすめの職場だと思います。

総務省では、地方自治体や他省庁、独立行政法人等に出向する機会もあります。入省3年目のときに独立行政法人統計センターに出向したことは、自分の中でもとても良い経験になっています。統計調査を実施する統計局の立場、調査結果を集計する統計センターの立場、それぞれの立場から調査に携わることができ、統計は一人で成し得るものではなく、たくさんの人々の力があってこそできるものだと肌で感じました。ぜひ、あなたの力を総務省でいかしてみませんか。



Private Life

おうちでのんびり本を読んだり、音楽を聴いたりするのも好きですが、旅行に出かけるのも好きです。どの土地に行ってもごはんがおいしくて、幸せな気持ちになります。47都道府県を制覇するのがひそかな夢です。写真は昨年行った屋久島です。



この国のために できること

内閣官房副長官補付
 命 内閣官房行政改革推進本部事務局局長
石原 裕也 ISHIHARA Yuya

平成25年 4月 総務省採用
 行政評価局政策評価官付
 平成26年 4月 行政評価局総務課
 平成27年 4月 行政評価局評価監視官付
 平成28年 8月 現職



■行政改革に答えなし!

行政改革・皆さんはこの言葉にどのようなイメージを持ちますか。政府はこれまで常に行政改革を求められてきましたが、その対象は予算、組織、事業、内部管理業務など非常に多岐にわたります。私は、現在、内閣官房の行政改革推進本部事務局という組織に所属し、政府における「行政改革」の中心的な仕事に携わっています。私の担当は、BPR (Business Process Re-engineeringの略。業務プロセスの見直し)、EBPM (Evidence-Based Policy Makingの略。証拠に基づく政策立案)の推進です。耳慣れない言葉ばかりだと思えますが、早い話、政府の業務をどのように変えたらより良くなるかを考える仕事です。この考えるという点がとても重要で、何を目標に据えるのか、そのために何を調べ、何を調べればよいのかを手探りで考えていくことになります。これは自分の力量が大きく反映されることになるので、困難である分、やりがいを感じる場所でもあります。

■多様な分野で活躍したいなら ぜひ総務省へ

私がかつて国家公務員を志したとき、一つの分野にとらわれず仕事をしてみたいという思いがありました。総務省はそんな思いを実現させるのには、最適な場です。私はこれまで政策評価、行政評価局調査に携わってききましたが、ときには教育分野、ときには外交・安全分野など、実に様々な社会問題に対応する能力が求められます。また、本省にて企画したり、現場へ赴き調査したりと仕事の幅も広範です。私は以前、海外子女教育の実態を調査するために中東に出張しましたが、現地の日本人学校の指導者や生徒たちの姿を見て、行政はどう支援するべきかを改めて考えるようになりました。数字ではなく、実際に現場を見る重要性を痛感する経験となりました。

多様な分野を理解するため、勉強の日々になりますし、体力も必要になりますが、多種多様な課題を抱えるこの国のために頑張りたいという意欲と情熱を持った方をお待ちしております!

Question & Answer

Q. 仕事をする上で心がけていることは?

A. 心がけていることは少し違うかもしれませんが、社会人になりたての頃、上司が「仕事は楽しく!」とよく口にしていたので、今でも「仕事は楽しく!」という言葉に折に触れて思い出しています。実際に働いていると、仕事は難しく、目に見える形ですぐに成果が出ないこともあり、楽しみややり甲斐を見出すことが難しいこともあります。ただ、何事も日々の積み重ねが大事なので、焦らずコツコツ地道に仕事をするようにしています。

Q. 出向先から見る総務省の印象は?

A. 内閣人事局にいても、総務省の活躍は耳にしています。例えば、内閣人事局では業務の効率化や職場環境の改善に向けた創意工夫をいかした取組を行った国家公務員の職場のうち、特に優秀なものを表彰する「ワークライフバランス職場表彰」を行っているのですが、平成29年度表彰では行政評価局や行政管理局の取組が表彰されました。こうした職場の改革を始め、新しいことにチャレンジしている印象があります。

Question & Answer

Q. 10年後はどんな仕事をしたい?

A. きっとまだ体力もあって元気だと思いますので、これまで携わったことのない新しい仕事に挑戦してみたいです。総務省内はもとより、他府省や自治体にも出向してみたいですね。今後、より活躍できるよう、様々な経験を積みたいと思います。

Q. 出向先から見る総務省の印象は?

A. 内閣官房のような政府の中核にいてより思うのが、総務省の存在の大きさです。政策評価、統計、情報公開、電子政府などの全政府的な取組には、必ずといってよほど総務省が深く関わり、しっかり基盤を支えています。内閣官房は職員が少なく、総合調整の機能を果たすことがメインとなります。総務省のような、地方機関を有する巨大な官庁が全政府的な取組をバックアップしてくれるということは非常に助かりますし、日本の行政を支える上でなくてはならない組織だと思っています。



Private Life

見知らぬ土地を歩くと脳が活性化するらしく、とにかく暇を見つけては頻りに旅行しています。以前は、一人で海外に行き、怪しげな場所を巡るバックパッカーなんてこともしていましたが、今では結婚したこともあり、「いのちをだいに」に切り替えて、計画性のある安全な旅行を心掛けています(笑)





大切なのは「チームワーク」

阿久根市副市長
春原 善幸 SUNOHARA Yoshiyuki

- 平成11年 4月 自治省採用
行政局行政体制整備室
- 平成13年 1月 総務省自治行政局市町村課行政体制整備室
- 平成13年 4月 奈良県企画部地域政策課
- 平成14年 4月 同 総務部市町村課
- 平成15年 4月 公営企業金融公庫融資部融資第一課(兼 第二課)
- 平成17年 4月 自治行政局選挙部管理課選挙啓発係長
- 平成18年 9月 国土交通省都市・地域整備局企画課企画第二係長
- 平成20年 7月 同 まちづくり推進課担い手活動推進係長
- 平成21年 4月 自治行政局公務員部福利課企画係長
- 平成25年 4月 自治行政局公務員部公務員課公務員第一係長
- 平成26年 4月 自治行政局公務員部公務員課給与能率推進室課長補佐
- 平成28年 4月 自治行政局公務員部公務員課主幹
- 平成29年 4月 現職

■まちづくりは人づくり

「最初の2か月で成果を出さないと、住民から『あの人はダメだ』という空気が流れ、とてもやりづらくなる」。市に赴任する際の地元関係者からのアドバイス。正直、不安の方が大きかった。でも、だからと言って一人で突っ走ってはいけなかった。大切なのは「チームワーク」、組織としていかにパフォーマンスを発揮するか。心がけたのは、職員を巻き込んで一緒に議論し「考える」こと。この課題の本質は何なのか、どうすればうまくいくか。そして、いつまでに何をすべきかの段取りをつけて迷わず「実行する」。「何でもやってみるもんですね」…ひとつの案件がうまくいって担当職員から笑顔で報告を受け、つい口にする言葉。最近、その機会が増えてきた。この小さな成功体験の積み重ねが職員の自信につながる。成果の積み重ねで街が変わる。職員の約25%は20代という若い組織。今日も副市長室ではホワイトボードを前に職員と熱い議論が交わされている。

■国での経験が成長の糧

私は、「まちづくり」に携わることが夢で自治省に入省しました。当時は地方自治体への就職と相当迷いました。どちらに進めば、将来、自分がやりたい「まちづくり」ができるのか。

これまで様々な業務に携わりました。大手広告代理店とタイアップした選挙啓発、民間による都市再生プロジェクト、社会保障・税一体改革など数々の法令の立案作業、国会審議対応…笑ったり泣いたり、悔しい思いをしたことも何度もありました。でも、上司・同僚と切磋琢磨し、たくさんの仲間と出会い、「チームワーク」で取り組んだことは私の財産です。今こうして県内最年少の副市長として市政の意思決定に携わることができるのは、こういった経験があったからこそです。

「仕事ができる人」とはどういった人か。それは頭の回転が早い人ではなく、「優しい人」「思いやりのある人」、つまり、相手の立場に立って物事が考えられる人です。次は是非、あなたの夢をかなえてください。

今、地方の現場で思うこと

上尾市行政経営部次長
兼 財政課長
江戸 将志 EDO Masashi

- 平成19年 4月 総務省採用
大臣官房会計課
- 平成20年 4月 自治行政局地域振興課過疎対策室
- 平成20年 7月 自治行政局地域自立応援課過疎対策室
- 平成21年 4月 熊本県市町村総室
- 平成23年 4月 大臣官房会計課
(併任 会計課予算執行調査室室員)
- 平成24年 4月 自治税務局市町村税課
- 平成25年 4月 自治財政局財政課企画係長
併任 自治財政局財政課
復興特別交付税室室員
- 平成27年 4月 自治財政局財政課制度係長
- 平成28年 4月 上尾市行政経営部財政課長
- 平成29年 4月 現職



■新しい街を描く

昨年12月末に実施された埼玉県上尾市長選。新市長就任から来年度予算決着までのリミットは、「50日」。どんなに短期間であったとしても、市の予算を掌る財政課長として、市長の想いを来年度予算に反映させなければなりません。それが私の仕事です。約23万市民による選挙を経て当選した市長。「市長」の想いの実現、それは、「市民」の想いの実現と同義です。

この「50日」は、私の人生の中でも色濃い50日でした。市長就任後翌日に本市の財政状況を市長に説明、1週間後に12月議会開会、2週間後に「予算編成の基本方針」を改定、その後1ヶ月で当初予算を編成し、3月議会に議案として提出。1日たりとも時間を無駄に出来ませんでした。こうして出来上がった予算をもとに、新しい「上尾」が動き出します。私は1人の職員として「新しい街を描く」仕事に携われたことを誇りに思うとともに、これから街が変わっていく姿を1人の市民として見届けたいと思います。

■直感を大切に

私は、入省10年目で上尾市役所に管理職として赴任しました。総務省に入省して地方に赴任すると、年齢に比して高い職責を担う機会に恵まれます。通常、市役所の管理職となると50歳前後の方が多く、その方々と肩を並べて職務に臨むことになります。これは決して容易なことではなく、自分の未熟さを痛感することもあれば、周りの方の心強さや温かさに触れることもあります。そうやって悩みながらも前を向き、様々な局面を打開していく経験は、自分にとってかけがえのない財産となります。入省する前に、今の自分を想像できたかという、答えは「否」です。官庁訪問時、生き生きと働く職員の姿に触れ、私の心は総務省に惹かれました。「新しい街を描く」仕事に携わることができる今の環境は、充足感に満ち溢れており、あの時の「直感」は今でも間違っていなかったと確信しています。皆さんも総務省を訪れ、職員に触れてみて下さい。きっと答えが見つかるはずです。

Week Schedule

- Mon ロケ地誘致に成功した映画のキャスト、スタッフさんとの交流会。映像を通じた市のPRに期待が高まります。
- Tue 担当課で作成した議会答弁書の説明&チェック。約80問…ほぼ1日がかかります。
- Wed 国保診療所のあり方をめぐって、医療法人の理事長との直接交渉。プレッシャーのかかる場面です。
- Thu 市議会での一般質問。市長を補佐できるように、しっかり答弁します。



- Fri 中学校の卒業式に市を代表して祝辞。涙を浮かべながら歌う卒業生に心を洗われる気持ちです。

Question & Answer

Q. これまでの仕事で達成感のあったことは？
A. 上尾市長選後の予算編成など、地方勤務時も、そして、総務省勤務時も、自分にとって「ほんの少し高いな」と思うハードルに出会うこともありましたが、目一杯背伸びして、それを乗り越えた時には、必ず心地よい達成感が待っていました。また、自分の携わった仕事や新聞記事になった時には、「自分の仕事で世の中と繋がっている」「自分の仕事で街が変わっていく」と実感し、大きなやりがいを感じることができました。

Q. 入省後、成長したと思うことは？
A. 入省して12年目を迎えますが、これまで霞ヶ関、熊本県庁、上尾市役所と3つの職場を経験しました。国家公務員だけでなく地方公務員として、地方の実情に触れながら様々なフィールドを歩み、色々な立場の方と議論を交わすことで、広い視野で物事を考える力を養うことができたと感じています。また、地方に管理職として赴任し、年齢に比して重い職責を任されることで、「個」として歩いていく力を鍛えることができたと感じています。



Private Life

漁港を抱える阿久根市。新鮮な鯛、アジ、イワシなど約150種類の魚介類だけでなく、黒豚、和牛日本一に輝く鹿児島黒牛、ポンタンや大将季の果樹などまさに「食」のまち。単身赴任していることもあって、自宅アパートを会場に同僚と一緒に地元酒蔵の焼酎を片手に地元食材を堪能します。現地でしか食べることができない、これが本当の贅沢です。



Private Life

上尾市には家族で赴任しています。長女は今年度から幼稚園に通います。赴任中、2人目の子どもも生まれました。市内には児童館など子育て施設が多く、子育て環境は充実しています。都内へのアクセスもよく、とても住みやすい街です！市内で開催される夏祭り、ハイキングや花火大会に行ったことは、家族のいい思い出です。



地方で得た学びと 思いを胸に

福井県総務部市町振興課
喜久里 彩芳 KIKUZATO Ayaka

平成27年 4月 総務省採用
大臣官房秘書課
平成28年 4月 自治税務局市町村税課
平成29年 4月 現職

■地方の現場で日々勉強の毎日

私は現在、福井県庁市町振興課で働いています。市町振興課では、行政グループに所属し、主に地方公務員制度の担当として、市町職員の給与や人事評価制度等についての助言や、総務省が地方の実態を把握するために実施する各種調査の取りまとめ等を行っています。国と市町を繋ぐ役割として、市町の状況を客観的に把握したうえで、国の制度を踏まえた適切な働きかけを行っていくことが求められます。「国の制度がこう変わったので、このようにしてください。」では、市町の職員の方々に納得はしてもらえません。「どんな風に説明をしたら納得していただけるか」「この市(町)だったらどのように制度を活用できるか」思いを凝らす必要があります。そのために、一旦立ち戻って、国の制度の趣旨や目指す姿を勉強し、一方で、各市町の個々の状況や抱える課題について分析する。制度づくりのその先にある、地方自治の現場だからこそ、日々勉強の毎日です。

■総務省だからこそできること

入省して2年目に所属していた自治税務局では、個人住民税に係る税制改正の、制度設計の一端に携わることができました。他省庁との折衝や、各政党での議論など、国ならではのダイナミックな業務に身を置くと、その改正が、制度を実際に運用する地方自治体の、そのまた窓口の業務にどのような影響を与えるかにまで思いをめぐらせ、議論を積み重ねていく過程は、まさに、一人ひとりが地方自治体での勤務経験を持ち、その経験を生かして国の制度を考えていく総務省だからこそできることだと、身をもって学びました。そして何より、総務省の魅力は「人」にあると思います。地方自治体での出向経験を経て、それぞれの「ふるさと」を胸に抱く先輩職員と、全国から来られている自治体職員の方々が日々汗を流す、地方に対する「愛」と「使命」に溢れたとても熱い職場です。是非、一度総務省へ足を運び、話を聞いてみてください。きっと心に響く何かがあると思います。



Private Life

こちらに来てからは、愛車を手に入れ、県内のあちこちを訪れています。赴任する前はあまりなじみのなかった福井県ですが、美味しいものが沢山あり、季節ごとに様相を変える豊かな自然など驚くばかりです。また、県で出会った同世代の仲間と飲みに行ったり、旅行に行ったりして、福井での生活を楽しんでいます。

アメリカから 地方自治を見つめて

自治体国際化協会ニューヨーク事務所所長補佐
倉内 佳織 KURAUCHI Kaori

平成21年 4月 総務省採用
自治財政局財務調査課
平成22年 4月 茨城県総務部地域支援局市町村課
平成24年 4月 消防庁総務課
平成25年 4月 大臣官房秘書課
平成27年 4月 自治体国際化協会総務部総務課主査
平成29年 4月 現職



Question & Answer

Question & Answer

Q. 総務省を志望した理由は？

A. 大学時代に経験した被災地でのボランティアは、東京で生まれ育った私にとって、初めて「地方」に触れた経験でした。その活動の中で、地域において大切に受け継がれた美しい自然や文化、そしてひたむきな人の暮らしを守る仕事をしたいと考えるようになりました。加えて、できることなら一つの地域でなく、職業人生のなかでまだ見ぬ様々な地域に関わっていきたくて将来を模索するなかで、総務省に出会い、「ここだ!」と思いました。

Q. 今までに一番印象に残った仕事は？

A. 入省1年目に全国の自治体が複式簿記会計を導入するための支援を担当しました。既存の情報を生かして効率よく財務書類を作成するためのツールづくりや複式簿記から得られた新しい情報をいかに自治体の施策に活用できるか、といった事例を発掘し自治体に対して発信する仕事です。当時、この分野に積極的に取り組まれている自治体の財政担当の方からお話を伺う機会が多くありました。地元を思い、将来を見通し、創意工夫して新たな取り組みを行われている姿を目の当たりにしたことは、入省間もない私にとって大きな刺激となり、こうした方々を支えたいという思いが総務省で働くモチベーションになりました。

Q. 10年後はどのような仕事をしたい？

A. これから10年間の間に、地方を取り巻く状況や、地方を支える制度の内容は、大きく変わっていくのではないのでしょうか。その間どのようなキャリアを積んでいくかは、今の私には想像もつきません。ただ、福井県で学んだことを胸に、変わりゆく情勢にアンテナを立てながら、常に学び続ける姿勢を持つことで、10年後には何かの制度のスペシャリストとして、周囲から信頼される仕事ができたらと思います。

Q. 今後、どのような仕事に挑戦したい？

A. 現在担当している業務のなかで、時には諸外国の制度なども参考にしながら地域活性化の方策を探る地方自治体と関わり、様々な課題に向き合う自治体が存分に力を発揮できるよう制度づくりを通して支えていきたいと改めて感じています。

■自治体の国際戦略・国際業務をサポート

自治体の国際化と聞いて皆さんはどんなことを思い浮かべますか。今、外国人旅行者や定住外国人の増加への対応とともに、地方創生の観点から地域産品の海外販路拡大やインバウンド強化がこれまで以上に求められるなど、自治体はその仕事を進める上であらゆる面で国際的関係を考えていかなければいけない時代を迎えています。自治体国際化協会はこの自治体のサポート役として、全国の自治体の総意のもと創られた組織で、自治体共通の海外拠点として7つの海外事務所を持っています。このうちのひとつであるニューヨーク事務所が私の職場であり、ここでは、北米の行財政制度をはじめ様々な事柄について自治体のニーズに基づいて調査し、その結果を自治体の政策立案等に活用してもらうことが主な仕事です。同僚のほとんどは自治体から研修のため派遣された地方公務員の皆さんで、多くは地元の自治体へ帰ってから国際業務の最前線で活躍しています。

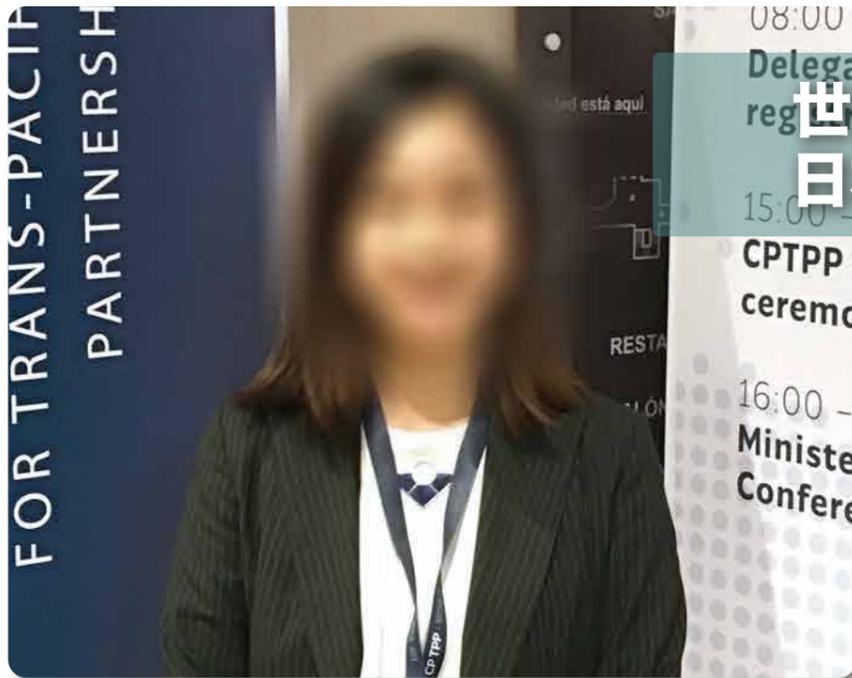
■多様な同僚に学ぶ

私たち総務省職員は、自治体への出向を通じて地方公務員としてもキャリアを積む機会があり、さらに本省や私の現在の職場のような関係機関でも全国各地の都道府県や市町村から出向している方々と机を並べて働いています。多様なバックグラウンドと業務経験を持つ同僚から現場の生の声を聞き、この制度がこうであったらといった率直な意見を仕事仲間として忌憚なく話せる環境で、制度を運用する地方自治体の視点からも物事を見る力を養うことができます。制度を設計する国家公務員として、こうした力を養える総務省の環境はとても貴重なものです。私自身、学生のときには、故郷で地方公務員として働くことにも大きな魅力を感じていましたが、職員の皆さんに惹かれ、総務省で働きたいと考えるようになりました。自治体への出向という経験はもちろん、霞が関での勤務でも多様な出会いを経験していることが、その魅力につながっているのだと思います。



Private Life

友人や同僚と食事をしながら会話を楽しんだり、学生時代にかじっていた水泳で身体を動かしてリフレッシュしています。ニューヨークに赴任してからは、せっかくなので新鮮な環境を楽しみたいと思い、一眼レフカメラで写真撮影をはじめました。



世界の裏側で、 日本をさげふ

外務省在チリ日本国大使館二等書記官
湯沢 華子 YUZAWA Hanako

平成16年 4月 総務省採用
情報通信政策局総務課

平成18年 8月 大臣官房総務課

平成19年 7月 情報通信政策局放送政策課

平成20年 7月 情報流通行政局放送政策課

平成22年 7月 情報流通行政局放送政策課事業振興係長

平成23年 7月 情報流通行政局総務課主査(日墨交換留学)

平成24年 9月 内閣法制局第三部参事官付

平成25年 12月 電気通信紛争処理委員会事務局調査専門官(育児休業)

平成27年 4月 情報通信国際戦略局国際政策課主査

平成27年 8月 情報通信国際戦略局国際政策課北米係長

平成29年 7月 現職

■チリと日本って…

私は現在、在チリ日本国大使館において、情報通信分野を中心とした経済分野や日本企業支援業務に取り組んでいます。チリは日本と同様、地震や津波など自然災害の多い国で、チリで発生した津波が日本まで届いた、という話を聞いた方もいるのではないのでしょうか。日本とチリは防災分野の協力を行っており、チリにおいて日本の優れた技術を用いた防災分野の取組は非常に期待されています。総務省でも緊急警報システムなどの防災ICTの取組を進めており、大使館として、チリでの展開に向けた働きかけを行っています。

チリの大使館は本省と比べると小所帯です。しかし、だからこそ、経済分野以外の政治や文化といった分野も幅広く担当しています。昨年は日チリ外交関係樹立120周年として様々な記念行事の実施に携わりました。今年の3月にはTPP11の署名式も実施されるなど、大使館が一丸となって取り組む行事も数多くあり、総務省だけでは味わえない貴重な経験ができました。

■重要度の増す国際業務

総務省における国際関係業務は年々その重要度を増しています。情報通信分野は国内だけに留まらず、フィールドは国外へ広がっており、世界を俯瞰した仕事を行うことができるのが魅力です。総務省では、現在ICTの国際展開に力をいれており、日本企業と連携・協力して相手国政府・企業にオールジャパンとして働きかけを行っています。まだまだ新しい分野なので手探り状態ではありますが、その分やりがいはあると思います。

また、総務省は、働き方もバラエティに富んでいます。私は、1年間の産休・育休を取得後に職場復帰したのですが、復帰後はテレワーク制度も活用しながら、効率的な業務を心がけました。総務省職員である夫も同様に、育児休業を1年間取得しました。男性の長期の育児休業取得はまだ例が少ないですが、総務省では徐々に浸透しつつあると感じています。制度があっても活用されないのではなく、制度を活用できる土壌があることが総務省の魅力であると感じています。



Private Life

チリの名産と言えば「ワイン」。市内から車で1時間程度の範囲にはワイナリーが点在しており、週末に様々なワイナリーを訪問するのが楽しみです。ツアーに参加して伝統的なワイン蔵を見学したり、試飲をしたりするのも素晴らしいですが、広大なぶどう畑を持つ自然豊かなワイナリー内をのんびり散歩するのも、とても気持ち良いです。

フランス・ボルドー 政治学院にて

人事院長期在外研究員(仏ボルドー政治学院)
尾崎 敦子 OSAKI Atsuko

平成21年 10月 総務省採用
情報通信国際戦略局国際政策課

平成24年 5月 総合通信基盤局電波部電波政策課
国際周波数政策室

平成26年 8月 情報通信国際戦略局国際政策課

平成28年 7月 情報通信国際戦略局国際政策課 I T U 係長

平成29年 7月 現職



■行政官が何故海外留学するのか

私は行政官長期在外研究員として、フランスのボルドー政治学院において、データに関する法政策の研究をしています。入省後、欧州各国やEU、情報通信技術(ICT)のための国連専門機関であるITUとの交渉を担当してきました。その中で、情報通信分野における欧州との関係及び国連の公用語の一つでもあるフランス語、これらの重要性を再認識し、将来的に国際機関等へ派遣されることも視野に入れ、フランスのグランゼコールで研究することにしました。

現在は、ネットにさえ繋がれば、世界中と簡単に繋がることができ、情報を得ることも可能です。しかし、各国との交渉の中で、何故彼らがそのような発言をし、交渉態度をとるのか、そのような機微はやはり現地に来て、この環境で彼らと生活する中で得心することが多々ありました。そもそも日本とは学び方からして異なるフランスで現地の様子を徹底して学ぶことこそ、行政官が海外留学する意義があるのだと思います。

■やりがい×成長の機会=総務省

私が総務省への入省を希望したのは、情報通信が既に我々の生活に欠かせないものであり、また今後も(少なくとも当分は)時代の最先端であり続けると感じたからです。自分も含め国民の幸福に寄与できる職務であるという点にやりがいを感じています。また、学生時代は、国際関係は外務省の所掌だと思っていましたが、総務省でも、国際関係の案件で、世界中で活躍できると知りました。実際、総務省に入省後、私も日EU・EPAの準備交渉、欧州各国との政策協議、ITUでの約190か国が出席する国際会議等で数々の交渉を担当してきました。現在はフランス語のみの生活ですが、私は帰国子女でもなければ、元々語学が堪能だったわけでもなく、仕事を始めてから、身に付けました。同様に、同僚も仕事の傍ら、語学に留まらず必要なスキルの研鑽に励んでおり、そのための研修機会も多く設けられています。また海外留学や民間交流、在外公館や国際機関への派遣等、業務の幅も広く、それだけに成長の機会も多分にあるといえます。



Private Life

授業も試験も全てフランス語で行われ、関係法令や判例も膨大なので、授業の予習・復習は欠かせません。そんな中で、マルシェに行ったり、世界遺産地区や綺麗な村を散歩したり、と時間を見つけては息抜きをしています。また、ホームステイ先の家族、友人らと一緒にお茶をしたり、伝統行事(クリスマス、バック(復活祭))を楽しんだりもしています。

Question & Answer

Q. 海外から見た総務省(日本)の印象は?

A. チリは、ブラジルやペルーほど日本人観光客や日系人が多くはありませんが、非常に親日国です。チリの若者からの日本の漫画・アニメの人気は高く、毎週様々な関連イベントが開催されています。また、ロボットなど科学技術分野でも日本の高い信頼性があります。日本から遠く離れたこの国で、日本の国としての魅力を、チリの人々の視点を通して改めて評価できることも、海外における貴重な経験だと思っています。

Week Schedule

- Mon フランス及びEUの農業政策に関する資金調達システムについて学びます。
- Tue 教授の研究室で、非関税障壁に関するEU判例についてディスカッションします。
- Wed 中国の憲法改正を受け、改正の意図や今後の影響等について議論を深めます。
- Thu 授業の合間に来週のゼミ発表の打ち合わせをし、本日最後の授業、乗馬へ。



- Fri 欧州人権裁判所に提起された訴訟に関連し、関係条約について研究を深めます。

Q. 総務省の魅力はどのようなところ?

A. 所管業務が幅広く、国内外の様々なフィールドで活躍できるチャンスがあることが魅力のひとつだと思います。私は入省後、1年間のメキシコ留学を経験して、その後も国際関係業務に携わりました。そして今回、チリで外交官として働く機会に恵まれました。大使館は、各省庁からの出向者、つまり各分野のスペシャリストから構成されています。私も総務省からの出向者として、これまで培ってきた情報通信分野での経験を外交分野で活かしていきたいと考えています。

Work Life Balance

総務省では、「ワーク・ライフ・バランス」の推進にも力を入れています。みなさんは入省後、結婚や出産などを経て、働き続けることをイメージすることができるでしょうか。今までとは異なる環境に置かれたとき、今までと同じような働き方をするのは、難しくなることもあるかもしれません。そこで、育児休業制度はもちろん、育児休業からの復職後も、「育児時間」や「テレワーク」など、仕事と育児の両立を目指すためのさまざまな制度が用意されています。今では、女性職員だけでなく、男性職員でも制度を活用する人が増えています。



安藤 弥生
平成15年入省
育児休業 (H25.9~H26.4)

テレワークを活用して育児と仕事の両立を

テレワークでは、総務省のパソコンを自宅に持ち帰って仕事を行うことができるため、時間や場所の制約がなく、柔軟な働き方ができます。私の場合、通勤の往復2時間+昼休み1時間を家事や育児に充てることができ、子供とのふれあいの時間が増えるなど、仕事と家庭の両立に大いに役立っています。また、緊急時の対応も可能となることから、急な用務が生じたり、急病や災害等で出社できなくなった場合のリスクヘッジにも有効です。



浅川 貴義
平成17年入省
育児参加のための休暇

制度を利用してパパも育児参画へ

2人目の子が生まれた時、男性職員も取得できる「育児参加のための休暇」を活用し、1ヶ月間毎日1時間早めに退庁し、産後間もない妻に代わり上の子の保育園のお迎えをしたり、2人の子供をお風呂に入れたりしました。この間は勤務時間が限られるので、職場の理解・協力も得つつ、自分でも効率的に仕事をこなせるようしっかりスケジュールを立てて取り組みました。育児は悪戦苦闘の毎日ですがそれ以上に楽しみも多く、日々働くエネルギーになっています。



岸 恵理子
平成21年入省
育児休業 (現在)

育児休業で気付くこと

短・中・長期スケジュールを念頭に、定例的なこと(衣食住の提供)をこなしつつ、突発的なこと(愚図り、発熱等)に迅速に対応できるよう頭をフル回転させる毎日は、仕事にも育児にも共通していると感じます。一方で、当たり前ですが、育児中は隣席に上司や同僚がいません。すぐに相談したり、時には愚痴をこぼすことができる上司や同僚に恵まれていたことに、育児休業を通して改めて気付かされました。



白土 香織
平成23年入省
育児休業 (現在)

子供との海外生活を体験して

私は、育休期間中に生後半年の娘とともに夫の海外留学(2年間)に同行しました。長期間職場を離れることに不安もありましたが、子育てや海外生活をとおして自分の知らなかった世界に出会い、私自身も成長することができました。娘のお陰で人間関係が広がり、様々な国籍の家族とお互いの文化を紹介しあったプレイデートはよい思い出です。職場復帰後も、育休期間中に得た経験を活かせる機会が必ずあると信じています。

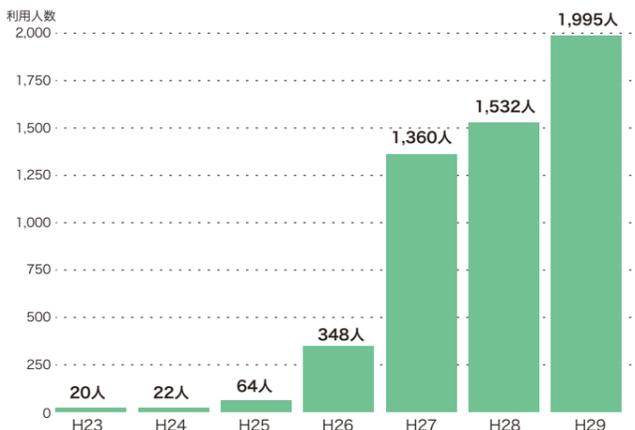
男女別の育児休業取得率等 (平成28年度)

	育児休業取得率 ※1	配偶者出産休暇 ※2
女性職員	100%	
男性職員	10.8%	68.8%

※1 平成28年度中に新たに育児休業が可能となった職員数に対する同年度中に新たに育児休業をした職員数の割合

※2 平成27年度に子が生まれた男性職員のうち、配偶者出産休暇を1日以上使用した男性職員の割合

テレワーク利用実績 (年度別)



Question & Answer

Q 最近の採用実績は？

A 平成30年度採用者数は本省が51人、地方支分部局が80人となっています。本省採用者は本省内の各部局や東京都内の各機関に配属されます。地方支分部局採用者は、採用された地方支分部局に配属されます。過去3年間の一般職(大卒程度)試験合格者の採用者状況は以下のとおりです。

	本省採用者	地方支分部局採用者		女性の割合
		管区行政評価局 行政評価事務所	総合通信局 総合通信事務所	
平成28年度	49(17)	45(19)	34(15)	39.8%
平成29年度	56(23)	46(20)	34(14)	41.9%
平成30年度	51(20)	38(20)	42(17)	43.5%

★人数は各年度の国家公務員一般職(大卒程度)採用者数

★カッコ内は女性の内数

※各年度試験には10月等に採用された人も含まれます。

Q 採用はどのように決定するのですか？

A 採用担当者とあなたとの面談を積み重ねて、あなたの長所・やる気・可能性などを総合的に判断して決定します。面談による人物本位の選考を行いますので、積極的に訪問していただき、あなたの魅力をアピールしてください。

Q 総務省の具体的な業務内容を聞きたいのですが、どうすればいいですか？

A 総務省では、平成29年度を例にとると、総務省独自の業務説明会(7月18日~8月10日)、人事院主催の合同説明会(全国各地での一般職各府省合同業務説明会、霞が関OPENゼミ)等を行いました。また、いくつかの大学においても業務説明会を行いました。

平成30年度も、同様に説明会を開催いたしますので、総務省ホームページ内の採用情報にて開催日程をご確認ください。

Q 採用後のキャリアステップについて教えてください。

A 一般職で採用となる職員は、入省後、内部部局の課・室において、係員・係長・課長補佐等として、主に特定分野の業務(例えば行政管理、地方自治、情報通信行政、統計など)を中心に担当することになります。配属された部署によって異なりますが、多くの人は2~3年に一度、本人の希望・適性に応じて別の部署へ異動することとなります。ただし、必ずしも特定分野の業務のみではなく、キャリア形成の過程で、大臣官房や他分野の業務を担当することもあります。また、係員級のうちから本省と地方支分部局を行き来する機会も多くあります。他にも、都道府県や市町村の幹部職員ポスト等への派遣、他府省等や海外の在外機関への出向、国内外の大学等への留学など多様な経験を積む機会があります。P.2のキャリアステップの一例もご覧下さい。

Q 採用後の研修は？

A 採用時に新任者研修を行うほか、業務に関連した研修や希望者を対象とした専門研修・昇任時の研修など様々な研修があります。例えば、平成29年度は英・仏語の語学研修や情報通信政策研究所においてICTに関する各種研修、統計研究研修所において統計に関する各種研修などを行いました。

Q 結婚・出産・介護と仕事の両立に関し、どのような支援がありますか？

A 配偶者が外国で勤務等をする場合、外国において生活を共にするため最長3年まで休業することができる配偶者同行休業制度があります。また、育児との両立では、女性職員の産前・産後休暇の取得はもちろん、男性職員も含め、子供が3歳になるまで育児休業の取得が可能で、復帰後は育児短時間勤務や育児時間の取得等の勤務時間制度も用意されています。他にも、家族に介護の必要が生じた場合、介護休暇や介護時間の取得が可能です。上記以外にも、フレックスタイム制では事前に勤務時間を調整・割り振ることで、柔軟な対応が可能な場合もあります。これらと合わせて、窓口業務などの一部の業務を除き、テレワーク(在宅勤務)も可能です。

総務省では、こうした制度を活用して多くの職員が両立しています。

Q 福利厚生等はどうなっていますか？

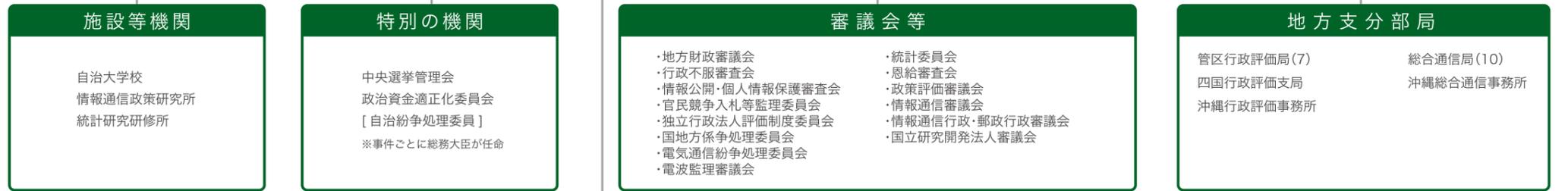
A 総務省に採用されると、総務省共済組合に加入することになり、医療給付等を受けられるほか、全国各地にある共済施設が利用できます。また、住宅資金の貸付制度もあります。

総務省の組織

総務大臣

総務副大臣(2) 総務大臣 政務官(3) 総務大臣補佐官

総務事務次官 総務審議官(3)



(注)組織図は政令以上で規定される主要組織のみを示している。(平成30年4月現在)

連絡先

総務本省 ※消防庁を含む	
事務系	大臣官房 秘書課人事係 〒100-8926 千代田区霞が関2-1-2 中央合同庁舎第2号館7階 03-5253-5111(代) 03-5253-5073・5074・5075(直)
技術系	【情報通信分野】 〒100-8926 千代田区霞が関2-1-2 中央合同庁舎第2号館10階 03-5253-5873(直) 【統計分野】 〒162-8668 新宿区若松町19-1 総務省第2庁舎 03-5273-1118(直)
管区行政評価局	
北海道管区行政評価局	総務課 〒060-0808 札幌市北区北8条西2-1-1 札幌第1合同庁舎 011-709-2311(代)
東北管区行政評価局	総務課 〒980-0014 仙台市青葉区本町3-2-23 仙台第2合同庁舎 022-262-7831(直)
関東管区行政評価局	総務部総務課 〒330-9717 さいたま市中央区新都心1-1 さいたま新都心合同庁舎1号館 048-600-2302(直)
中部管区行政評価局	総務課 〒460-0001 名古屋市中区三の丸2-5-1 名古屋合同庁舎第2号館 052-972-7411(直)
近畿管区行政評価局	総務部総務課 〒540-8533 大阪市中央区大手前4-1-67 大阪合同庁舎第2号館 06-6941-3431(直)
中国四国管区行政評価局	総務課 〒730-0012 広島市中区上八丁堀6-30 広島合同庁舎第4号館 082-228-6172(直)
四国行政評価支局	総務課 〒760-0019 高松市サンポート3-33 高松サンポート合同庁舎南館 087-826-0671(代)
九州管区行政評価局	総務課 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-11-1 福岡合同庁舎 092-431-7081(直)
沖縄行政評価事務所	総務課 〒900-0006 那覇市おもろまち2-1-1 那覇第2地方合同庁舎 098-866-0145(直)

総合通信局

北海道総合通信局	総務部総務課 〒060-8795 札幌市北区北8条西2-1-1 札幌第1合同庁舎 011-709-2311(代) (内線)4607
東北総合通信局	総務部総務課 〒980-8795 仙台市青葉区本町3-2-23 仙台第2合同庁舎 022-221-0606(直)
関東総合通信局	総務部総務課 〒102-8795 千代田区九段南1-2-1 九段第3合同庁舎22階 03-6238-1625(直)
信越総合通信局	総務部総務課 〒380-8795 長野市旭町1108 長野第1合同庁舎 026-234-9964(直)
北陸総合通信局	総務部総務課 〒920-8795 金沢市広坂2-2-60 金沢広坂合同庁舎 076-233-4413(直)
東海総合通信局	総務部総務課 〒461-8795 名古屋市中区白壁1-15-1 名古屋合同庁舎第3号館 052-971-9106(直)
近畿総合通信局	総務部総務課 〒540-8795 大阪市中央区大手前1-5-44 大阪合同庁舎第1号館 06-6942-8507(直)
中国総合通信局	総務部総務課 〒730-8795 広島市中区東白島町19-36 082-222-3306(直)
四国総合通信局	総務部総務課 〒790-8795 松山市宮田町8-5 089-936-5012(直)
九州総合通信局	総務部総務課 〒860-8795 熊本市西区春日2-10-1 熊本地方合同庁舎 096-326-7809(直)
沖縄総合通信事務所	総務課 〒900-8795 那覇市旭町1-9 カフーナ旭橋B-1街区 5階 098-865-2300(直)